

学校法人福岡学園 令和6年度事業報告の事業の概要

1. 教育の質の向上

(1) 歯科大学は、自己点検サイクルの充実・強化及び口腔医学教育の実践を検証するため、学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に基づいたアセスメントプランを完成させたほか、令和7年度からそのプランを基に各種委員会で自己点検した取り組み状況を自己点検・評価委員会が点検・評価し、助言等を行うPDCAサイクルを確立させることにより口腔医学教育を一層充実することとしました。歯学研究科では、コースワーク・リサーチワークの円滑な実施体制の検証を今年度も継続してシラバス上で確認しました。第118回歯科医師国家試験は、新卒53名、既卒43名、合計96名が合格し、新卒での50名以上の合格は10年ぶり、既卒を含めた90名以上の合格は12年ぶりの好結果となりました。

(2) 看護大学は、電子教科書導入によるペーパーレス化を目指して取り組んだほか、CBT・OSCEの導入に向けて、第3学年で実習・国家試験スタートアップ（JKS）を実施しました。また、口腔ケア看護教育モデルの充実に向けて、口腔ケア教育に関連する科目と整合した教育モデルを可視化する取り組みを行いました。看護学研究科では、歯科衛生士入学者を受け入れるために見直した教育3ポリシーに沿って教育をしたほか、「口腔病態生理特論」、「看護・口腔医療連携特論」については、学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に沿って教育の評価を行いました。第114回看護師国家試験は、92名が受験し90名が合格、第111回保健師国家試験は8名が受験し7名が合格しました。

(3) 短期大学は、学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に基づき実施したアンケートの調査結果等を勘案し、次年度の実習科目の実施方法の一部を変更したほか、自己点検・評価委員会の下に設置した検討部会で作成したカリキュラムマップについて、課程表改正も含めて再度検討を行いました。また、乳幼児・青年期・高齢期の各世代を対象に、専攻科生が3つのグループに分かれて各世代に即した口腔機能の発達や維持・向上に寄与するセミナーを実施しました。第34回歯科衛生士国家試験は、新卒62名が受験し、53名が合格しました。

2. 研究の質の向上

(1) 口腔医学研究センターは、5つの口腔医学プラットフォーム（PF）を構築し、学園3大学から31名の研究者を選抜して適切なPFに再配置するとともに、第6回口腔医学研究センターシンポジウムを開催し、各PFから選ばれた代表者5名が研究成果の発表を行いました。

(2) 看護大学は、第44回日本看護科学学会シンポジウムにおいて、熊本大学、宮城大学と共同で歯科・看護の多職種連携教育に関して発表を行うとともに、論文を投稿し、BMC Medical Educationに掲載されました。また、科研費では、令和6年度の助成金保有率が63.3%となり、口腔関連の研究テーマでブランド力を高めました。

(3) 短期大学は、科研費による研究の一環として、口腔保健指導プログラムの開発について看護大学とカリキュラムの統合の可能性を議論し、一部の実習で合同授業を実施しました。また、歯科衛生士研修支援センターにおける研修会時の調査から得られた結果について学会発表を行い、論文化を進めました。

(4) 専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は、歯科大学は103編（うち欧文63編）、看護大学は39編（うち欧文12編）、短期大学は36編（うち欧文10編）でした。

3. 学生の受け入れ・支援

(1) 学園3大学は、大学教育・高等学校教育の活性化等を目的として、福岡県立福岡講倫館高等学校と「高大連携に関する協定」を締結したほか、看護大学は福岡県立福岡中央高等学校との連携協定を締結しました。

(2) 歯科大学は、特待生の入学後の修学状況を検証した結果、専願S特待生で入学した学生が入学後も周囲の学生に対し学習意欲の面で好影響を与えているため、令和7年度も同様の特待生制度の継続を図りました。また、学生及び大学院生向けのオリエンテーションに保健管理セ

ンターの公認心理師が参加し、合理的配慮や保健管理センターの紹介をするなど、学生が相談しやすい環境を整備しました。

(3) 看護大学は、高大連携事業の拡大、企画・運営に学生を参加させたオープンキャンパスの開催、進学説明会への参加、依頼のあった高校及び業者主催の出張講義・進学ガイダンスへの参加並びに教職員による高校訪問（九州・山口・沖縄）を実施したほか、意欲のある学生確保に向け、入学者選抜方法の検証や妥当性、学修環境などについての分析を行い、特待生制度、奨学金制度を変更することとしました。

(4) 短期大学は、新入生やオープンキャンパス参加者のアンケート結果に基づき、ホームページの新着情報に受験生目線の内容をできるだけ多く掲載したほか、社会人選抜および社会人選抜受験者対象の修学支援制度を新設、オープンキャンパス日程の追加等定員確保のための方策を実施した結果、定員を充足しました。また、成績不振者への補習や保護者面談もその都度行い、昨年度に比して1年次の退学者が減少しました。

(5) 令和7年度入学者数は、歯科大学口腔歯学部82名・同大大学院14名、看護大学看護学科121名、同大大学院7名、短期大学歯科衛生学科98名・同大専攻科20名でした。

4. 社会との連携・貢献

(1) 地域連携センターは、出前講座および看護大生の地域行事、歯科大生の地域小学生への学習支援等ボランティア活動等、従来対面で行ってきた活動の一部を再開しました。また、田隈中学校の2年生を対象に将来の進路について考える「夢授業」が行われ、本学園より歯科医師、看護師、歯科衛生士を講師として派遣し、「仕事内容」や「仕事のやりがい」、「中学生へ向けてのメッセージ」等各職種の魅力を伝えました。

(2) 短期大学は、地域高齢者の「おしゃべりつく会」に月1回担当教員が講師として参加し、地域高齢者の健康維持に寄与したほか、「かふえもりのいえ」の運営に協力し、学生がボランティアとして参加する等社会貢献活動に努めました。

(3) 医科歯科総合病院は、「福岡歯科大学医科歯科総合病院連携の会」を開催し、前年を上回る104名の参加があり、今後の地域医療について意見交換を行い、連携を深めました。また、健診センターでは、地域企業、市民への定着化と受診者の定期受診に繋がるよう、企業担当者と綿密な連携調整による円滑な受入れや満足される対応を実践した結果、一般の健診受診者が増加しました。1日平均の外来患者数は794.7人、入院患者数は27.3人でした。

(4) 介護老人保健施設は、7月にコンサルタント会社と経営コンサルティング契約を締結し、9月以降は施設類型を加算型に1ランク落として入所者増を目指すことで収支改善に努めました。また、令和6年度の介護報酬改定に伴い、村上華林堂病院と協力医療機関協定を締結し、協力医療機関連携加算を取得しました。1日平均の入所者数は50.7人、通所利用者数は20.8人でした。

5. 組織運営及び財務・施設整備

(1) 学校法人のガバナンス強化のため、改正私立学校法に基づき、本学の寄附行為の変更認可申請を行い文科省より認可を受けたほか、内部統制システム整備の基本方針の策定、私立大学ガバナンス・コード第2.0版の次年度からの遵守状況の点検と運用開始等を決定しました。

(2) 新キャンパス整備計画1期工事（新本館）は、プロット、家具の選定打合せと並行し、土壌汚染対策に関する各種申請・届出手続きを遅滞なく実施するとともに、外構、外装、内装工事を計画どおり順調に進め、年度末の出来高はおおよそ68%となりました。

(3) 短期大学は、厚労省の補助事業「歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業」に今年度も採択され、昨年度設置した「歯科衛生士研修支援センター」による研修を計8回実施し、延べ人数207名（新人72名、スキルアップ55名、復職80名）の参加がありました。

(4) 医科歯科総合病院は、役割と責任を明確化するため薬局を診療支援部門から独立させ病院長直下に置き、組織名を薬剤部に変更、看護師主任の役職名を副看護師長に改称したほか、今後の特定共同指導、適時調査の受審に向け、適切な診療録の記載を徹底することを任務とする診療録記載管理委員会を設置しました。

学校法人福岡学園 令和6年度事業報告書

I. 法人の概要

法人の名称：学校法人福岡学園

住所：〒814-0193 福岡県福岡市早良区田村二丁目15番1号

電話：092-801-0411

URL：<https://www.fdcnet.ac.jp>

1. 法人の目的

学校法人福岡学園は、昭和48年に大阪以西で唯一の私立歯科大学として「福岡歯科大学」を開設し、現在、口腔医学の学問体系の確立・育成と全身の疾患が理解できる医療人の育成に向けて、特色ある教育研究を行っている。平成25年4月からは、口腔医学に関する活動をアピールするとともに、歯学教育や歯科医療の実態に即したものとするため、学部学科の名称を「口腔歯学部・口腔歯学科」に変更した。また、地域の医療センターとしての「医科歯科総合病院」を有する。この他、全国初の「口腔保健学士」認定専攻科を持つ「福岡医療短期大学」、全国に先駆けて設置した高齢者福祉のための「介護老人保健施設 サンシャインシティ」を併設している。さらに、平成29年に「福岡看護大学」を開学させたほか、女性の就業環境整備のため、同年、「ぺんぎん保育園」を開設。大学院教育について、昭和60年に歯科大学大学院（博士課程）を開設させたほか、令和3年4月に看護大学大学院（修士課程）を新たに設置し、更なる教育研究のフィールドを広げている。このように、本学園は、一貫して教養と良識を備えた有能な歯科医師、看護師、保健師、歯科衛生士の養成及び教育・研究者の育成に努め、医療・保健・福祉の総合学園として、教育・研究の質の向上及び地域医療・福祉への貢献を目指している。

【建学の精神】

福岡歯科大学：教育基本法及び学校教育法に基づき、歯学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な歯科医師を育成することを目的とし、社会福祉に貢献すると共に歯科医学の進展に寄与することを使命とする。

福岡看護大学：教育基本法及び学校教育法に基づき、看護学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な看護専門職を育成することを目的とし、社会福祉に貢献するとともに、看護学の進展に寄与することを使命とする。

福岡医療短期大学：歯科衛生学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な歯科衛生士を養成し、保健福祉に貢献すると共に、歯科衛生学の進展に寄与する。

2. 沿革

昭和47年 7月	学校法人福岡歯科学園寄附行為認可、福岡歯科大学設置認可
昭和48年 2月	福岡歯科大学附属病院開設
昭和48年 4月	福岡歯科大学開学
昭和55年11月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校設置認可
昭和56年 4月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校開校
昭和60年 3月	福岡歯科大学大学院設置認可
昭和60年 4月	福岡歯科大学大学院開設

平成 8年10月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校の福岡医療福祉専門学校への校名変更及び同校の社会福祉専門課程設置認可
平成 8年12月	福岡医療短期大学設置認可
平成 9年 3月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程募集停止
平成 9年 4月	福岡医療短期大学開学、福岡医療福祉専門学校開校
平成11年 2月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程廃止認可
平成11年 4月	福岡医療短期大学専攻科歯科衛生学専攻開設
平成11年12月	福岡医療短期大学保健福祉学科設置認可
平成12年 1月	福岡医療福祉専門学校社会福祉専門課程募集停止
平成12年 4月	福岡医療短期大学保健福祉学科開設
平成14年 1月	福岡医療福祉専門学校廃止認可
平成14年 8月	介護老人保健施設（サンシャイン シティ）開設
平成15年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科3年制へ移行
平成17年 1月	病院名を福岡歯科大学医科歯科総合病院に改称
平成20年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科の専攻科が大学評価・学位授与機構の認可を得て、学士（口腔保健学）の専攻科として認定
平成23年 6月	法人名を福岡学園に変更認可
平成23年11月	福岡歯科大学口腔医療センター開設認可
平成23年12月	福岡歯科大学口腔医療センターを開設
平成25年 4月	福岡歯科大学の学部・学科名を口腔歯学部口腔歯学科に変更
平成28年 8月	福岡看護大学設置認可
平成29年 4月	福岡看護大学開学
平成29年 8月	ぺんぎん保育園開園
平成31年 3月	福岡医療短期大学保健福祉学科令和2年度から学生募集停止決定
令和元年 9月	福岡歯科大学収容定員変更認可(令和2年度から入学定員96名)
令和 2年 9月	福岡歯科大学医科歯科総合病院新病院開院
令和 2年10月	福岡看護大学大学院設置認可
令和 3年 3月	福岡医療短期大学保健福祉学科廃止
令和 3年 4月	福岡看護大学大学院開設
令和 4年 7月	50周年記念講堂竣工
令和 4年 7月	学校法人福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念式典挙行
令和 5年 4月	福岡歯科大学口腔医療センターを本院に移転
令和 6年 2月	新キャンパス整備計画1期工事（新本館）着工

3. 設置する学校・学部・学科等、その入学定員、学生数等の状況

(表1)

(令和6年5月1日現在)

学 校 名	学部学科等名	開 設 年 度	修業年限(年)	入学定員(人)	収容定員(人)	在学者数(人)
福岡歯科大学 (学長 高橋 裕)	口腔歯学部 口腔歯学科	昭和48年	6	96	600	532
	大学院歯学研究科	昭和60年	4	18	72	35
福岡看護大学 (学長 樗木 晶子)	看護学部 看護学科	平成29年	4	100	400	424
	大学院看護学研究科	令和3年	2	5	10	14
福岡医療短期大学 (学長 田口 智章)	歯科衛生学科	平成 9年	3	80	240	183
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	平成11年	1	20	20	23

施設名	区分	開設年度	定員(人)	1日当り利用平均(人)	年間利用延数(人)
介護老人保健施設 サンシャインシティ (施設長 岡田賢司)	入所	平成14年	85	50.7	18,521
	通所	平成14年	40	20.8	5,981

4. 出願者、入学者及び収容定員充足率等の状況

(表2)

学校名	学部学科等名	令和6年度入学者				令和7年度入学者			
		出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
福岡歯科大学	口腔歯学部 口腔歯学科	231	210	188	98	210	194	165	82
	大学院歯学研究科	9	9	9	9	14	14	14	14
福岡看護大学	看護学部 看護学科	349	336	251	114	289	279	223	121
	大学院看護学研究科	7	7	7	7	7	7	7	7
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	65	65	65	61	103	103	100	98
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	33	32	25	23	40	40	22	20

(表3)

(毎年度5月1日現在)

学校名	学部学科等名	年度別収容定員充足率				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
福岡歯科大学	口腔歯学部 口腔歯学科	0.8	0.8	0.8	0.8	0.9
	大学院歯学研究科	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5
福岡看護大学	看護学部 看護学科	1.1	1.0	1.0	1.1	1.2
	大学院看護学研究科	—	1.0	1.2	1.0	1.4
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	0.8	0.7	0.7	0.8	0.8
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	1.2	1.2	1.1	1.3	1.2

5. 教職員数

(表4)

教 員 数

(令和6年5月1日現在)

	教授等	准教授	講師	助教	助手	その他	小計	客員教授	客員准教授	臨床教授	臨床准教授	非常勤講師	合計
歯科大学	40	20	39	53	—	—	152	12	1	25	7	50	247
看護大学	12	2	6	10	11	—	41	1	—	—	—	10	52
短期大学	8	1	7	1	1	1	19	—	—	—	—	17	36
老 健	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1
合 計	61	23	52	64	12	1	213	13	1	25	7	77	336

(表5)

職 員 数

(令和6年5月1日現在)

	事務職員	技術職員	技能職員	補助職員等	医療職員等	介護職員等	医員	合計
歯科大学	46	5	2	32	—	—	—	85
看護大学	11	—	—	9	—	—	—	20
短期大学	5	—	—	—	—	—	—	5
病 院	20	—	—	2	133	—	76	231
老 健	3	—	—	—	15	30	—	48
保健管理センター開設準備室	—	—	—	—	3	—	—	3
合 計	85	5	2	43	151	30	76	392

※非常勤職員を含む。

6. 役員・評議員・役職教職員

(令和6年5月1日現在)

(表6) 理事(定数10～17人)・監事(定数2～4人)・顧問

役職名	氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別
理 事 長	水 田 祥 代	平成22年6月3日	常 勤
常務理事	田 口 智 章	令和2年4月1日	常 勤
理 事	高 橋 裕	平成30年2月1日	常 勤
理 事	樗 木 晶 子	令和2年8月3日	常 勤
理 事	瓦 林 達比古	平成27年10月1日	非常勤
理 事	宮 口 厳	平成17年8月3日	非常勤
理 事	石 橋 慶 憲	令和5年4月1日	常 勤
理 事	坂 上 竜 資	令和4年4月1日	常 勤
理 事	古谷野 潔	平成26年8月3日	非常勤
理 事	江 里 能 成	令和5年8月3日	非常勤
理 事	海老井 悦 子	平成27年12月1日	非常勤
監 事	工 藤 重 之	令和5年8月3日	非常勤
監 事	西 方 和 久	平成25年1月1日	非常勤
顧 問	木 下 明	平成31年4月1日	非常勤
病院顧問	阿 南 壽	令和4年4月1日	常 勤
情報顧問	藤 村 直 美	令和4年4月1日	非常勤

(表7) 評議員(定数24～35人)

役職名	氏名	就任年月日
評 議 員	水 田 祥 代	平成22年6月3日
評 議 員	田 口 智 章	平成29年8月3日
評 議 員	高 橋 裕	平成17年8月3日
評 議 員	樗 木 晶 子	平成29年8月3日
評 議 員	坂 上 竜 資	令和4年4月1日
評 議 員	石 橋 慶 憲	平成21年6月26日
評 議 員	藤 木 明	令和5年4月1日
評 議 員	松 添 裕 晃	令和元年6月1日
評 議 員	横大路 智 視	令和3年1月1日
評 議 員	都 築 尊	令和3年4月1日
評 議 員	古 村 南 夫	令和4年4月1日

役職名	氏名	就任年月日
評 議 員	樋 口 勝 規	平成 28 年 7 月 19 日
評 議 員	中 畑 高 子	令和 2 年 4 月 1 日
評 議 員	平 田 雅 人	平成 30 年 2 月 1 日
評 議 員	朔 啓二郎	平成 17 年 8 月 3 日
評 議 員	古谷野 潔	平成 26 年 8 月 3 日
評 議 員	瓦 林 達比古	平成 27 年 10 月 1 日
評 議 員	海老井 悦 子	平成 27 年 12 月 1 日
評 議 員	江 里 能 成	令和 5 年 8 月 3 日
評 議 員	平 田 泰 彦	令和 2 年 8 月 3 日
評 議 員	神 田 晋 爾	平成 29 年 8 月 3 日
評 議 員	宮 口 嚴	平成 11 年 8 月 3 日
評 議 員	吉 永 修	令和 2 年 4 月 1 日
評 議 員	中 四 良	令和 2 年 8 月 3 日

※本法人は、役員（理事、監事）及び評議員について、役員の健全な経営判断及び本法人の更なる発展をサポートするため、令和3年度から継続して日本私立大学協会の役員賠償責任保険（対象:理事、監事、評議員 保険期間:1年間 総支払限度額:1億円）に加入し、役員の損害賠償リスクを補償しています。

（表8） 役職教職員等

【福岡歯科大学】

役職名	氏名
学 長	高 橋 裕
医科歯科総合病院長	坂 上 竜 資
学 生 部 長	稲 井 哲一朗
情 報 図 書 館 長	大 星 博 明
口腔・歯学部門長	城 戸 寛 史
全身管理・医歯学部門長	池 邊 哲 郎
社会・基礎医歯学部門長	日 高 真 純
医科歯科総合病院副院長	都 築 尊
医科歯科総合病院副院長	古 村 南 夫
医科歯科総合病院副院長	樋 口 勝 規
医科歯科総合病院副院長	中 畑 高 子

【福岡看護大学】

役職名	氏名
学 長 ・ 研 究 科 長	樗 木 晶 子
学 部 長	宮 園 真 美
学 生 部 長	中 島 富有子
情 報 図 書 館 長	晴佐久 悟
基礎・基礎看護部門長	青 木 久 恵
健康支援看護部門長	内 田 莊 平
地域・在宅看護部門長	中 島 富有子
教育支援・教学IR室長	荒 川 満 枝
大学院副研究科長	飯 野 英 親

【福岡医療短期大学】

役職名	氏名
学 長	田 口 智 章
学 科 長	力 丸 哲 也

【介護老人保健施設】

役職名	氏名
施 設 長	岡 田 賢 司

【事務局】

役職名	氏名
事 務 局 長	石 橋 慶 憲

II. 事業の概要

1. 教育の質の向上

1) 口腔医学教育の実践

歯科大学では、“口腔”を身体の一つの臓器と位置づけ、現在の歯学教育の高度専門化とともに一般医学教育を充実させた「口腔医学」を確立・育成することが、超高齢社会を支える歯科医学・歯科医療にとって非常に重要であるとの考えから、「歯学から口腔医学へ」をモットーに、口腔医学教育・口腔医療の確立・育成のフロントランナーとして、その実践に努めてきた。

また、口腔医学を推進させるために平成 27 年度に創設された「田中健蔵基金」による第 9 回目の事業として、看護大学のタブレット保管庫及び短期大学の口腔ケア用吸引装置の購入費 490 万円の支援を実施した。

○歯科大学

(1) 口腔歯学部

自己点検サイクルの充実・強化及び口腔医学教育の実践を検証するため、学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に基づいたアセスメントプランを完成させた。このアセスメントプランを基に令和7年度より各種委員会レベルで自己点検した取り組み状況を自己点検・評価委員会が点検・評価し、助言等を行うPDCAサイクルを確立させることにより口腔医学教育を一層充実することとした。

また分野別認証評価の受審に向け、診療参加型臨床実習の充実及び内容等を検証するために立ち上げた組織によって、令和6年度については患者同意書の見直し、自験症例数調査等を行った。

歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験については、12月3日、4日に学外試験監督者の下で実施され、第5学年全員が合格した。

今回から公的化された共用試験において、公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が主催するOSCEの評価者認定講習に合格した評価者によるOSCEを2月9日に実施し、円滑かつ厳格な試験を実施することができた。

(2) 歯学研究科

口腔医学教育を実践するため総合医学基本テーマを昨年に引き続き設定し、歯科以外にも医科科目の講義・実習を必修科目として開講している。医科疾患の診断・治療の臨床演習を引き続き実施した。また、研究科運営委員会を中心にコースワーク・リサーチワークの円滑な実施体制の検証をシラバス上にて確認を行う体制を今年度も継続した。学位申請の必須要件と

している中間発表会においても、各専門領域の教員から口腔医学に関連した口頭試問や研究アドバイスをを行うことで大学院生の口腔医学への理解を更に深めることができた。

○看護大学

(1) 看護学部

配分される研究費を有効に運用するために使用計画や会計報告に関する共通認識を徹底し、管理基盤の透明化を図った。共通経費も作ることができ有効な予算運用が可能となった。

教材及び消耗品管理の検討によって講義資料の膨大な印刷量を課題ととらえ、電子教科書導入によるペーパーレス化を目指して取り組んだ。

その他、口腔ケア看護教育モデルの充実に向けて、機能的口腔ケアを含む口腔ケア教育に関連する科目と整合した教育モデルを可視化する取り組みを行った。さらに、学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に基づいた各評価項目の基準について点検した。

(2) 看護学研究科

歯科衛生士入学者を受け入れるために見直した教育3ポリシーに沿って教育した。

口腔医学に関する科目を充実させながら、歯科衛生士の大学院生の研究テーマを進めてきた。口腔健康に関連する病態生理科目と研究方法に関する教育を充実させるための科目を見直し、令和7年度入学生から適用することとした。当初、歯科衛生士入学者の学修が深まるよう準備した科目「口腔病態生理特論」と「看護・口腔医療連携特論」については、令和5年度に定めた学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に沿って教育の評価を行った。

令和5年度から本研究科を卒業した社会人1名を研究生として迎えて、口腔医療関連の研究テーマで研究し、第44回日本看護科学学会学術集会にて若手優秀演題口頭発表賞優秀賞を受賞した。

○短期大学

(1) 歯科衛生学科

① 学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）等に基づく内部質保証活動の実践

学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に基づき実施したアンケートの調査結果等を勘案し、次年度の実習科目の実施方法の一部を変更した。

② 多職種連携に関する学生の意識向上を目指す

した3大学共同の口腔医学教育の検討

看護大学と短期大学において、両大学の学生が2日間にわたり合同実習を行った。

③ 超高齢社会に対応でき、指導的役割を果たす歯科衛生士の育成

介護職員初任者研修修了資格を歯科衛生学科2年次全員が取得した。また、多様なライフステージに対応できる歯科衛生士の育成を目指し、乳幼児・青年期・高齢期の各世代を対象に、専攻科生が3つのグループに分かれて各世代に即した口腔機能の発達や維持・向上に寄与する内容を組み込んだセミナーを実施した。

2) 教養と良識を兼ね備えた有能な医療人の育成

学園3大学では、教員の意欲向上並びに教育の質向上及び改善を図ることを目的に制定した「最優秀教育改善賞要項」に基づき、令和6年度についても教育活動において顕著な成果を挙げ、他の教員の模範となる教員を選出した。

○歯科大学

ディプロマ・ポリシーで定められた医療人として必要なプロフェッショナリズム・コミュニケーション能力について、当該能力を養成できるように授業が行われているかの点検・検証を昨年に引き続きIR運営委員会及び学務委員会にて行い、現行のカリキュラムにおいて、各学年で当該能力を獲得する機会が設けられていることが確認できた。

また現行のシラバスや授業評価アンケートを活用した検証・評価を実施し、改善点を次年度シラバスに反映できるようデータの提示を行った。

歯学研究科の令和6年度の学位取得状況は、課程博士6名、論文博士1名であった。

○看護大学

(1) 高度な看護実践能力の育成

昨年に引き続いて、現行カリキュラムと新カリキュラムの併行に伴う学生の履修計画等の課題に関する対策を、教務委員会を中心に徹底した。学生の履修状況や出席状況、成績評価や授業アンケート結果を注視しながら、カリキュラムを運営した。また、学修成果の向上を目指して、令和7年度からの教育教材のデジタル化に向けた取り組みを開始した。

CBT・OSCEの導入に向けて、まず第3学年の空きコマを活用した実習・国家試験スタートアップ（JKS）を実施した。

臨地実習においては、新型コロナウイルス感染症に伴う実習施設の事情等にも柔軟に対応し、すべての実習を円滑に終了することができ

た。

卒業生には、4年間のディプロマ・ポリシーの達成度に関する可視化したディプロマサブリメントを卒業証書と共に配付した。

(2) 実習体制の整備

「実習委員会」が主体となって、全学年の臨地実習を統括した。大学と実習施設の連携強化を目指し、引き続き、定例の「実習協議会」をオンラインで開催した。また、実習前後の「実習指導者会議」を定期的に開催した。

実習委員会と看護大学危機管理室が連携し、感染予防のガイドラインを含め、本大学の感染予防対策を実習施設に提示し、臨地実習の調整を行った。

臨地実習終了後は、実習指導者会議を実施し、学生の学修成果を実習施設にフィードバックし、常に協議を行う体制を形成することで、臨地実習を効果的に継続できるよう取り組んだ。

(3) 教育力向上のためのFD

DPを満たす人材の育成について、学生の自己評価に基づいて達成状況を可視化し、計画的にFD研修を実施するために、卒後1年3ヶ月（3期生）及び卒業生（5期生）に対して、現在のDPの達成状況を同質問で調査、報告した。

また、教員の教育力向上を目的に、「成績低迷者に対する効果的な教育方法に関するFD研修」、「電子教科書の効果的な活用を学ぶFD研修」、「口腔ケアを取り入れた看護教育推進のためのFD研修」を実施し、いずれの研修も対象教員の参加率100%であった。

(4) 看護学研究科の教育

教員体制を整えた状態で大学院教育が実施できた。歯科衛生士の受験の受け入れに伴って開講した科目も予定通りに実施でき、問題なく履修計画を遂行できた。

学士相当の能力を有する歯科衛生士、他の医療職の入学受入れを見込んで修正した3ポリシーに基づいて教育を展開できた。

また、学生が希望する履修年限通りに学修が修了するよう指導し、4名が無事に修了した。配分される研究費を有効に運用するために使用計画や会計報告に関する共通認識を徹底し、管理基盤の透明化を図った。共通経費も作ることができ有効な予算運用が可能となった。

教材及び消耗品管理の検討によって講義資料の膨大な印刷量を課題ととらえ、電子教科書導入によるペーパーレス化を目指して取り組んだ。

○短期大学

(1) 教育目的・目標を踏まえた学修成果の明確化

自己点検・評価委員会の下に設置した検討部会により作成したカリキュラムマップについて、次年度の課程表改正も含めて、再度検討を行った。また、アドミッション・ポリシーの見直しの一環として、入学者選抜に係る評価の比重一覧を作成した。

（２）教員の教育力向上

体系的なFD・SD計画に基づき学内研修を5件実施したほか、学園主催の研修会13件も含めて、各研修会対象者が積極的に参加し、教育力等の向上に努めた。また、学内研修では、紙媒体を利用して学修ポートフォリオの電子化に関するFDを実施し、運用を開始した。

3) 国家試験への取り組み強化

○歯科大学

国家試験への取り組みとして、第6学年講義の強化だけではなく、低学年教育の充実と自主学修の促進を国家試験への強化策として実践している。入学直後の学力テストの結果に応じて、各種補修講義を実施しているほか、第1学年からの自主学習習慣の定着促進のため、第1学年の学生2～3名ごとに1名の助教をサポートとして配置し、定期的な面談を通じて学修習慣や学修方法確立の支援を行った。更にサポートの他に各学年の助言教員が学期途中に行われる中間試験の結果を基に面談を行い、学生毎の学修状況を早期に把握し、必要に応じて保護者への協力を得て学習状況の改善を促す取り組みを行った。第6学年に対しては、昨年に引き続き模擬試験の分析結果に基づき各科目担当教員を集め、補強講義のための参考データを提示したほか、模擬試験直後に学生自身が弱点を把握し克服するために自修可能な時間を設定するとともに質問対応可能となるよう教員がスタンバイする体制を作った。

これら各種取り組みの結果、第118回歯科医師国家試験では、新卒53名、既卒43名、合計96名が合格した。新卒での50名以上の合格は第108回以来10年振り、既卒を含めた90名以上の合格は第106回以来12年振りの好結果となった。

○看護大学

第1学年は、解剖・生理学専門の教員による学修会を実施し、興味関心を持って楽しく学修できる機会の提供ができた。第2学年は、必修問題の学修強化に向けサドンデス模擬試験等を定期的実施した。第3学年は、国試問題を授業・演習、授業以外の学修時間に活用し、知識強化を図った。看護学分野の実習前後では、国試問題を解く学修課題を出し、国家試験の学修と実習での学びと統合させた。第4学年では、定期的に模擬試験を実施し、その結果を教育支援・教学IR室で分析し、学生に具体的学修強化策を提示した。業者や教員による補講、個別対策などを実施するとともに、成績低迷者の強化指導を実施した。第114回看護師国家試験は、92名が受験し、90名が合格、合格率97.8%（全国新卒平均95.9%）で、既卒者4名も合格した。第111回保健師国家試験は、新卒8名が受験し、7名が合格し、合格率87.5%（全国新卒平均96.4%）であった。

○短期大学

今年度も卒業試験・国家試験受験者全員の合格を目指して、国家試験対策授業である口腔保健テーマ別講義や成績不振者対象の補習の実施、また、国家試験対策として計9回実施した臨床テストの個人成績表を配付し、自己の弱みを認識させる等対策を講じた結果、62名全員が卒業試験に合格した。卒業決定後も成績不振者に対しては、国家試験までの期間、更なる学力向上へ向けて補習を行った結果、第34回歯科衛生士国家試験は、新卒受験者62名中53名が合格し、合格率85.5%（全国合格率91.0%）であった。

4) 短大の4年制化の検討

○短期大学

4年制化を見据え、専攻科の教育内容に医科関連の内容や小児患者ロボット実習等の専門的な内容を組み込み実施した。

また、全国歯科衛生士教育協議会が実施している「専任教員認定歯科衛生士」の資格取得に向けた専任教員講習会Ⅰ～Ⅴの各レベルに計2名が参加し、教育研究能力の向上に努めた。

2. 研究の質の向上

1) 口腔医学を基盤とする研究の促進

○口腔医学研究センター

先進的かつ独自性の高い研究活動を一層推進・拡充し、ブランディング強化を図るため、「常態系」、「病態系」、「再生系」、「臨床歯学系」、「医学系」の5つの口腔医学プラッ

トホーム（PF）を構築し、学園3大学から31名の研究者を選抜し、それぞれを適切なPFに配した。各PFでは口腔の健康は全身の健康を守るという「口腔医学」のコンセプトに基づいた共通目標のもと、独自の先駆的研究に取り組むとともに相互の連携研究にも取り組んだ。

12月6日に第6回口腔医学研究センターシンポジウムを開催し、5つの口腔医学プラットフォームから選ばれた代表者計5名が研究成果の発表を行った。

その他、本センターを活用した業績を取りまとめて、ホームページにて学内外へ公表した。

○歯科大学

歯学研究科において口腔医学研究を促進させるため大学院生へ口腔医学研究センターシンポジウムへの積極的な参画を促した結果、8名の大学院生が参加した。

○看護大学

口腔を基盤とした保健・医療・福祉に関する研究の活性化を組織的に検討するために、看護系学会において他大学との共同発表を企画して、第44回日本看護科学学会シンポジウムにおいて、熊本大学、宮城大学と共同で歯科・看護の多職種連携教育に関して発表するとともに、論文を投稿し、BMC Medical Educationに掲載された。

看護継続教育として、令和6年度は「看護に活かせる口腔教育研修」の基礎編を6月30日に開催し、参加者は14名、応用編は7月6日に開催し、参加者は8名であった。

○短期大学

科研費による研究の一環として口腔保健指導プログラムの開発について看護大学と短期大学のカリキュラムの統合の可能性を議論し準備をすすめ、一部の実習で合同授業を実施した。厚労科研は研究班の2年目として、中央病理診断、ゲノム診断の構築、歯科を含めた長期フォローアップ体制の構築、全国再調査の実施、市民公開講座や家族会の支援など順調に進捗した。また、歯科のフォローアップシートを試作し評価中で、次年度も引き続き検討することとした。

○アニマルセンター

令和6年度の動物実験計画承認書の申請件数は11件で、動物種の導入はマウス（SPF含む）が3,587匹、ラットが57匹、カエルが45匹を導入し、昨年度と比較してラット及びカエルの導入数が増加し、研究活動の活性化が見られた。

また、アニマルセンター使用者講習会は、更新者（4年毎）15名、新規登録者15名が受講した。

○歯科大学・看護大学・短期大学

教育研究経費として、歯科大学には学長重点配分経費 10,000 千円、病院長重点配分経費 5,000 千円、学術振興基金事業経費 19,000 千

円、看護大学には学長重点配分経費 2,000 千円、共同研究費 1,000 千円、短期大学には学長重点配分経費 1,500 千円、共同研究費 500 千円を配分した。

令和6年の研究業績は、歯科大学専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は103編、うち欧文は63編であった。

看護大学の専任教員の総論文数（著書、原著論文等）は39編、うち欧文は12編であった。

短期大学専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告）は36編、うち欧文は10編であった。（別表1）

2) 研究ブランドの構築、研究の活性化

○歯科大学・看護大学・短期大学

科研費の獲得状況は、別表2（歯科大学）、別表3（看護大学）、別表4（短期大学）のとおり。歯科大学では令和5年度と比して、採択件数64件から59件と5件減となり、採択金額は8,394千円減少した。看護大学では、採択件数16件から18件と2件増となったが、採択金額は780千円減少した。短期大学では、採択件数は7件から9件と2件増となり、採択金額は4,680千円増となった。

科研費獲得に向け、令和7年度の科研費公募時期に合わせて、恒常的に研究助成金を獲得している教員によるFD「科研費獲得にかかるFD」を7月9日に実施するとともに研究計画書のブラッシュアップを実施するなど、全学的に外部資金獲得マインドの向上を図った。

○看護大学

大学の研究ブランドの確立と定着を目指して、看護学・口腔医学共同研究ワーキンググループを中心組織として「看護分野における口腔ケア・口腔ケア教育」に関する臨床看護研究を継続的に推進した。一連の成果は、第44回日本看護科学学会において、看護・口腔に関するテーマのシンポジウムに採択された。

科研費では、令和6年度の助成金保有率は63.3%で、口腔関連の研究テーマでブランド力を高めた。

また、研究活動成果の収集方法をシステム化し、研究業績集を情報図書委員会が中心となって作成することとしており、この準備として、Research mapから業績を抽出するためのシステムを構築し、マニュアルを作成したほか、1月には当該システムの説明会を実施した。

○短期大学

（1）私立大学研究ブランディング事業の成果を発展させた短大独自ブランドの構築

私立大学研究ブランディング事業の継続事業として実施している地域の高齢者を対象とした全身と口腔機能関連の測定を実施し、データを蓄積した。また、測定結果を参加者にフィードバックし、健康維持に寄与できるよう努めた。

（２）歯科衛生士教育に関する研究の推進

歯科衛生士研修支援センターにおける研修会時の調査から得られた結果について学会発表を行い、論文文化を進めた。

３）健全な研究活動の推進

○歯科大学・看護大学・短期大学

学園3大学の公的研究費不正防止計画に基づき、研究費の不正使用防止にかかる「公的研究費等にかかるコンプライアンス教育講習会」を7月～10月にビデオ講演で実施し、学園3大学の教職員及び大学院生を含んだ受講対象者の432名全員が受講した。また、研究活動における不

正行為防止にかかるFD「研究倫理教育FD講演会」についても7月～10月にビデオ講演で実施し受講対象者378名全員が受講した。

5月に新規の研究者を対象に「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、「人を対象とする研究の倫理及び研究の実施に関する講習会」を開催し、合計62名が参加した。なお、その後受講を希望した研究者及び大学院生等へビデオ講習会を開催し、令和6年度は計102名が受講した。

○看護大学

個人情報等の情報管理のレベルから研究倫理に関する学部・大学院教育を強化するために、倫理教育を含むFD・SD研修を計画的に開催した。

令和6年度は福岡学園の研究倫理講習会に加えて、「科研費の採択のためのFD研修」、「研究実施と論文作成の向上のためのFD研修」を開催し、教員38名全員が参加した。

3. 学生の受け入れ・支援

1）教育現場活性化のための定員確保

（１）福岡県立福岡講倫館高等学校との高大連携

学園3大学は、大学教育・高等学校教育の活性化等を目的として、福岡県立福岡講倫館高等学校と「高大連携に関する協定」を締結した。

（２）高校等との連携推進

教育に係る交流・連携を図ることで、双方の教育研究力の向上、地域貢献や課題解決を目指すことを目的として、連携協定を締結していた学園3大学と筑紫女学園高等学校との交流を、昨年度に引き続き実施した。更に福岡市立高校4校との活動を開始し、6月には3日間かけて延べ152名の高校生をキャンパスツアーや授業体験に受け入れた。

看護大学では、依頼のあった高校及び業者主催の出張講義・進学ガイダンスに随時参加した。

看護大学と短期大学は、共同実施の高校教員対象合同入試説明会及び研修会を6月に1回実施し、13校の参加を得た。

短期大学では、連携協定を締結している福岡女子高等学校、福岡西陵高等学校、福岡翔高等学校の生徒98名を対象にキャンパスツアーや授業体験を実施したほか、福岡女子高等学校1年生300名を対象に専攻科生が歯科保健指導のセミナーを開催した。

○歯科大学

（１）口腔歯学部

受験生ニーズを反映した選抜方法等の見直しのため、入学者選抜区分毎の入学者及び特待生の入学後の修学状況を検証した結果、専願S特待生で入学した学生は入学後も周囲の学生に対し学習意欲の面で好影響を与えていることもあり令和7年度選抜においても同様の特待生制度の継続を図った。また令和7年度入学者選抜において適正かつ円滑な選抜試験が可能となる募集要項の表記の見直しを検討した結果、増加している外国人受験希望者への案内として入学後日本語で授業を理解できる者として日本語能力試験でN1取得程度を有すると明記した。

口腔歯学部の志願者数は210名で、入学者数は82名であった。

（２）歯学研究科

志願者増加のため昨年に引き続き大学院のすすめとして各講座の紹介を行ったほか、研修医の事前アンケートで希望の多かった教室の教授と大学院生の講演を実施し、大学院の周知・勧誘を行った。入学者数は14名であった。

○看護大学

（１）看護学部

学生募集のあり方や公報について、入試委員会を中心に検討した。高大連携事業の拡大、企画・運営に学生を参加させた2回のオープンキ

キャンパス開催、進学説明会への参加（27会場29日）、依頼のあった高校及び業者主催の出張講義・進学ガイダンスの参加、教職員による高校訪問も九州・山口・沖縄へ各1回実施した。また、高大連携を積極的に推進し、筑紫女学園高校、福岡市立高校4校に加え、福岡中央高校及び福岡講倫館高校と新たに協定を締結し、キャンパスツアー等を行った。それ以外にも糸島高校や久留米信愛高校からのキャンパスツアーも受け入れ、本学の魅力をアピールした。

さらに、学生や高校生のアンケートなど各種データを分析し、魅力ある教育体制や学生支援に関する大学の強みをアピールする方策を検討した。大学のブランド化を進め、アピールする情報を大学のホームページやInstagramで高校生向け・学生向けに作成し、適宜発信した。

その他、意欲のある学生確保に向け、入学者選抜方法の検証や妥当性、学修環境などについての分析を行い、特待生制度、奨学金制度を変更することにした。変更内容を本学の特色である口腔医学を取り入れた看護学やwell-beingの説明とともに、高校生や教員、保護者に説明した。志願者数は昨年比17.2%減の289名、競争倍率は昨年比同率の1.3倍となり、121名（募集定員100名）が入学した。

（2）看護学研究科

令和3年4月の開学以降、定員は充足しており、これまで学生が希望した修業年限で修了し、令和7年3月には4名が修了した。令和7年度入試は7名が入学した。

○短期大学

今年度実施の入試から社会人選抜および社会人選抜受験者対象の修学支援制度を新設、オープンキャンパス日程の追加等定員確保のための方策について入試委員会で検討し、実施した結果、定員80名に対し入学者98名となり、定員を充足した。また、昨年度実施の入試から変更した一般選抜の選択科目追加および専願者を対象とする特別奨学生制度の新設に対する効果は、出願者12名中7名、うち専願希望者5名全員が追加した科目を選択する等見直しの効果は今年度もみられた。専攻科は、定員20名に対し学外入学者2名を含む20名となり定員充足となった。

2) 学生募集のための広報手段の拡充

○歯科大学

入試委員会を中心に学生募集戦略の検討を行い、高校訪問について重点高校を指定する等、訪問エリアや訪問頻度の見直し及び新入生アンケート結果を基にした広報戦略の見直しを行った。特に広報戦略では高校生に向けたSNS

を介した情報発信を強化し、SNSから出願に結び付いたケースも確認できたことから一定の効果が見られた。

○看護大学

高校生等に効果的広報活動を行うため、新入生などを対象とした調査・分析から、広報活動を見直し、その結果を受け、学友会と連携した学生主体のオープンキャンパスを実施した。

また、1年生と4年生から出身校に対して近況報告のハガキを作成し、高校訪問時持参もしくは郵送した。

さらに、大学パンフレットとホームページを見直し、内容の整理とともに学生による大学紹介のビデオを新たに作成し始めるなど広報内容を刷新する取り組みを行った。学生アンケートの結果から最も活用されているSNSを用いて学生の学修の様子や大学等で行われた活動、高大連携協定校の訪問の様子など、積極的に広報を行った。11月から1月にかけて、SNSの広告を活用し、受験者の多い福岡・沖縄の近隣の高校生及び高校生の親世代である40・50代を対象にInstagramによる広報を行った。

○短期大学

（1）大学の強みや魅力を最大限に伝えられる広報戦略の検討

新入生やオープンキャンパス参加者のアンケート結果に基づき、ホームページの新着情報に受験生目線の内容をできるだけ多く掲載した。また、大学案内の内容も受験生が見たくなるような構成を検討し、内容充実に努めた。

（2）ホームページやSNSの発信内容の充実

担当教員が、在学生にも協力してもらい講義・実習風景、行事風景等の記事アップを細目に行い、目標としていたフォロワー500人越えを達成した。

3) 学生支援体制の整備

（1）情報図書館の整備等

昨年度に引き続き蔵書情報の整備の一環として、図書システムにより、3分の1にあたる約6.9万冊の各大学の閲覧室の点検整備を実施した。

歯科大学では、外国語雑誌高騰対策として昨年度導入したNatureのPay Per Viewに加え、ElsevierについてもPay Per Viewを導入した。

オンラインジャーナルやデータベース等を学外から利用できるよう学術認証フェデレーション「学認(GakuNin)」を導入した。

その他、いつでもどこでも閲覧できる電子図

書を収集するため、歯科大学では医学や歯科学、論文作成に役立つ資料を39冊、看護大学では看護系や学生でも読みやすい医学系を中心に34冊の受け入れを行った。

○歯科大学

（１）保健管理センター

疾病等が原因で修学が困難な学生の早期把握と対策の検討を行う目的で保健管理センターと定期的に情報交換を行った。また年度初めの学生及び大学院生向けオリエンテーションに保健管理センターの公認心理師に参加してもらい合理的配慮や保健管理センターを紹介し、学生が相談し易い環境を整備した。

また、大学院生のメンタルケアについても、保健管理センターと情報を共有する体制を構築したほか、新任の大学院指導教員を対象としたFD研修会を5月に実施した。

（２）学修支援

成績不振等、特に指導が必要な学生の早期対応として定期試験前に実施する中間試験の成績が不振の学生については、学生本人及び保護者と助言教員が面談を行い、学修方法の見直し等を指導した。

また、定期試験・追再試験の終了後や年度末の時期を中心に、学生の修学に関して学生や保護者からの相談に学生部長、学生部次長、助言教員が個別に丁寧に対応した。その他、障害学生支援に基づく、合理的配慮提供を周知し、義務化に向けた対応を行った。

（３）経済的支援

日本学生支援機構や本学学生共済会の各種奨学金周知と手続きの支援を適宜実施した。

昨年に引き続き学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生に対して、各種特待生制度による表彰を実施した。また、文部科学省「学生等の学びを継続するための緊急給付金」に申請を行ったほか、経済的に困難な学生に対して適切に相談を受け、授業料減免や学生納付金納付猶予等の支援を行った。

（４）学年別説明・保護者面談会の実施

毎年前期定期試験終了後に保護者と助言教員が面談を行い、学修支援の内容や大学の現状を説明することで大学・学生・保護者の三者のコミュニケーションの強化を図っており、令和6年度は8月4日に実施し、昨年とほぼ同じ約300名の保護者と面談を行った。面談に参加できなかった保護者に対してWEBや電話での面談も随時対応を行った。

（５）福岡歯科大学学生後援会・学生共済会・同窓会との連携

① 学生後援会は、年2回の理事会・評議員会合

同会議を対面とZoomによるハイブリッドにて開催し、学生支援について検討を行った。

② 学生共済会は、5月及び3月に理事会・代議員会合同会議を開催し、5月は前年度の事業に関する決算等について審議を行った。

③ 同窓会については、同窓生のご子息、ご息女対象オープンキャンパスを6月に実施した。

○看護大学

（１）学修支援

チューター教員による定期面談を定期的に実施した（4月・7月・3月）。成績不振や健康問題などを抱えた学生に対しては、随時、面談を行い、必要時、保護者も交えた三者面談及び個別的な支援を行った。また、健康問題は、保健管理センターと連携した支援を行った。

教育支援・教学IR室の情報分析を基に、学生の学修環境の整備を行い、主体的な学修ができる支援体制を整えた。

（２）学内活動の支援

学友会活動が活発になる支援を行い、学友会の企画・運営で学生交流会や芸術祭開催ができた。学生同士が協力し支え合う教育を行った。

（３）キャリア支援

看護師・保健師としての就職活動、助産師課程への進学等については、毎年度ガイダンスを改善しながら実施している。昨年度に引き続き、就職・進学への姿勢や学修方法等について第4年次の学生から下級生に情報伝達交流会を実施した。

（４）学生の経済支援の充実

各種奨学金の周知とその申請手続きの支援等を適宜実施した。

また、本学独自の看護職育成奨学金制度の周知を行い、個別に学生相談を実施した。

学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生に対する各種特待生制度の人数を増員した。

（５）福岡看護大学学友会・学生後援会との連携

4月に学友会総会を学生が開催できるように支援し、学友会の役割と令和6年度予算案等について協議ができるように支援した（学長、学生部長等参加）。5月と3月には、学長、学部長、学生部長等が出席のもと、学生後援会理事会において学生の学修や成長、学修成果、各種活動について情報を共有するとともに、学生の支援のために実施する諸事業について報告し、令和6年度予算に係る事項や令和6年度決算及び令和7年度予算等について協議した。

○短期大学

（１）成績不振者や精神的不調の学生に対する支援体制の強化

短大全教職員が連携を密にし、情報を共有しあい、情報をもとに学生への声かけ等細目なケアを行い、学生をサポートした。また、成績不振者への補習や保護者面談もその都度行い、昨年度に比して1年次の退学者が減少した。

（２）経済的支援

例年どおり各種奨学金の案内及び手続きの支援や経済的に困難な学生の相談を受け、学生納付金納付猶予等の支援を適宜行ったほか、学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生に対して、特別奨学生制度を実施した。

（３）福岡医療短期大学校友会・学生後援会・同窓会との連携

校友会は、学長、学科長、学年担任等が出席し、7月に総会を開催し、事業計画と役割、令和5年度決算案・令和6年度予算案等について協議した。

学生後援会は、入学式・卒業式時に理事会、入学式時に総会を開催し、役員の選任、令和5年度決算案・令和6年度予算案等について協議した。

同窓会は、短大関連の情報や学園行事等について適宜同窓会専用のホームページに情報を掲載する等連携強化に努めた。

4) 文部科学省「高等教育の修学支援新制度」の対象校に選定

文部科学省が実施する意欲ある子どもたちの進学を支援するため、授業料・入学金の免除または減額と、返還を要しない給付型奨学金の大幅拡充による高等教育の修学支援制度の対象校として、歯科大学、看護大学、短期大学の3大学が引き続き選定された。また、令和7年度から適用される「多子世帯に対する大学等の授業料等無償化」について令和6年度中に全学生へ周知を行った。

4. 社会との連携・貢献

1) 安全で良質なサービスの提供

○医科歯科総合病院

看護の質の維持、向上を図るため、新人看護師・中堅看護師を対象とした院内外の研修会に参加し修了した。

紹介医療機関や近隣医療機関との連携を強化し地域医療の充実に寄与することを目的に「福岡歯科大学医科歯科総合病院連携の会」を開催し、前年を上回る104名の参加があり、今後の地域の医療について意見交換を行い、連携を深めた。

訪問歯科センターでは、地域医療機関からの新たな依頼に対応するなど、前年を上回る訪問歯科診療を行い、訪問先医療機関等の患者のQOL向上に寄与した。

（１）患者数等

外来患者数は、歯科は対前年100.6%の140,546人、医科は対前年103.3%の62,501人であった。入院患者数は、歯科は対前年114.9%の5,153人、医科は対前年88.3%の5,777人であった。健診受診者は、対前年102.2%の8,899人であった。

病院収入は、対前年109.4%の2,636,467千円であった。支出は対前年109.2%の2,853,535千円であり、収支バランスは対前年106.7%の▲217,068千円であった。

外来患者

・ 歯科	R6 : 140,546 人 [550.1 人/日]
	R5 : 139,741 人 [546.9 人/日]

・ 医科	R6 : 62,501 人 [244.6 人/日]
	R5 : 60,533 人 [236.9 人/日]
外来計	R6 : 203,047 人 [794.7 人/日]
	R5 : 200,274 人 [783.9 人/日]
入院患者	
・ 歯科	R6 : 5,153 人 [14.1 人/日]
	R5 : 4,486 人 [12.3 人/日]
・ 医科	R6 : 5,777 人 [15.8 人/日]
	R5 : 6,544 人 [17.9 人/日]
入院計	R6 : 10,930 人 [29.9 人/日]
	R5 : 11,030 人 [30.1 人/日]

令和6年度決算の資金収支差額（借入金返済に係る支出を除く）は、▲217,068千円となった。

（２）歯科医師臨床研修

令和6年度歯科医師臨床研修は、プログラムⅠ並びにプログラムⅡにより実施した。予定通りの研修を実施し、研修歯科医56名全員（プログラムⅠ臨床研修歯科医38名、プログラムⅡ臨床研修歯科医18名）に対し、令和7年3月21日に修了証を授与した。

○老健施設

（１）利用者数

施設の独立した採算を目指して、令和6年度は施設活性化検討委員会を11回開催し、利用者増、業務改善を図った。また、7月にコンサルタント会社と経営コンサルティング契約を締結し、在宅復帰率30%以上の維持から9月

以降は施設類型を加算型に1ランク落として入所者増を目指す方針とし、収支改善に努めた。在宅復帰・在宅療養支援機能加算に係る評価ポイントが60ポイント以上維持する事ができなかったため、8月に福岡市へ変更届出書を提出のうえ9月以降は加算型施設の基本額で請求を開始した。

令和6年度入所1日平均は50.7人（令和5年度：40.2人）で、前年度比10.5人増、通所利用者は、令和6年度1日平均は20.8人（令和5年度：23.6人）で、前年度比2.8人減となった。

サンシャインシティ施設利用者数等は表9のとおり。

表9 サンシャインシティ施設利用者数等

利用者 (定員)	年間利用 延数(人)	稼働率 (%)	対前年比	1日当平均 (人)
入所者 (85人)	18,521	59.7	12.4%増	50.7
通所 (40人)	5,981	52.0	7.0%減	20.8

介護収入は345,592千円（前年度比52,870千円増）であった。

（2）教育・実習施設としての活用

歯科大学第1学年10名が介護施設体験、看護大学第1学年114名がフィールド研修、第3学年107名が在宅看護実習、短期大学歯科衛生学科第2学年28名が介護職員初任者研修、第3学年62名が口腔介護実習を行った。法人グループ以外では、九州大学歯学部は10名、福岡大学医学部看護学科は7名、同医学科は2名、中村学園大学の大学院生は4名が実習を行った。また、令和5年度短期大学の介護職員初任者養成研修に施設介護職員を講師として派遣した。

（3）新型コロナウイルス感染対策

令和5年12月4日以降は、家族面会制限を緩和して、平日午後の時間を10分間で親族のみに制限しフロアでの面会を再開していたが、令和7年2月末から新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したため、再度家族面会の制限を行った。

（4）介護報酬改定

令和6年度に介護報酬改定があり、高齢者施設等と医療機関との連携強化として、既に協力医療機関となっていた村上華林堂病院と協議のうえ協力医療機関協定書を締結し、協力医療機関連携加算を取得した。

2）国民皆歯科健診に向けた体制の確立

○短期大学

医科歯科総合病院各専門科の歯科衛生士を講師として、現場目線の内容で歯科診療補助業

務の講義を実施した。また、月1回ペースで短大・病院連携作業部会を開催し、臨床実習の内容改善等を検討した。

○医科歯科総合病院

健診センターでは、センター設置以来、口腔ケアの重要性の理解をすすめ、歯科受診を促してきた。令和6年度は無料で行ってきた「歯科相談」から有料の「歯科健診」への移行や、歯科診療科へのコンサルによる受診が増えており、口腔ケアの理解が浸透してきた。

3）地域連携センターの取り組み

本センターは、地域団体との連絡調整を行って学園全体の地域貢献の取り組みを支援してきた。令和6年度は、対面で行ってきた活動を一部再開し、出前講座および看護大学生の地域行事、歯科大生の地域小学生への学習支援等ボランティア活動を再開した。

（1）社会貢献活動における連携団体

- ① 福岡学園の所属する田村校区自治協議会及び社会福祉協議会との連携活動『地域カフェ「かふえもりのいえ」』は公民館、学園関連施設において毎月1回計12回（参加者389名、スタッフボランティア177名）実施した。
- ② 野芥校区自治協議会・早良区社会福祉協議会・福岡未来創造プラットフォームとの連携のもとでの同校区子ども食堂への学習支援は12回催行され、歯科大学学生3名の派遣と福岡市西部地区五大学連携及び福岡未来創造プラットフォーム共同開催参画大学の学生42名の派遣の連絡調整を実施した。
- ③ 公民館・自治会等からの要請に基づき、出前講座を7件実施106名が受講し、地域住民等に健康情報を提供した。
- ④ 中村学園大学栄養クリニックを主催とする健康イベント「健康開花フェスティバル2024」（6月8日）及び連携企業（UR九州支社）主催健康アカデミーイベント「オーラルフレイルについて」（11月11日宝台団地集会所）に教員を派遣し、受講者14名、スタッフ11名により実施した。
- ⑤ 福岡市歯科医師会が主催する市民向け健康イベント（「福岡市民の健康を歯と口から守る集い」（6月9日））は、初めて「ららぽーと福岡」で開催され、10名の歯科医師を派遣し、口臭・禁煙、口腔外科（口腔がん）、歯周病、小児歯科、矯正歯科の5つの相談ブースで175名の相談を受けた。また、糸島歯科医師会主催の歯科無料相談に令和元年度以来、歯科医師を2名派遣し、50名の相談を受けた。

⑥ 七隈線沿線三大学連携において実施の中村学園大学栄養科学部大学院生の歯科大学施設利用臨地実習は、昨年度から受け入れを再開し、令和6年度は9月19日にサンシャインシティで5名の大学院生を受け入れた。

⑦ 田隈中学校で中学2年生を対象に将来の進路について考える「夢授業」(令和6年11月20日)が行われ、本学園より歯科医師、看護師、歯科衛生士を講師として派遣し、「仕事内容」や「仕事のやりがい」、「中学生へ向けてのメッセージ」等各職種の魅力を伝えた。

⑧ 地域と学園教職員・学生との人的交流は、田村自治協議会主催の夏祭り・運動会への学生ボランティアの参加ならびに近隣の中学校、地域の子ども会チーム等の学園祭への参加などで行った。

(2) 地域住民向け健康教育等の公開講座開催

① 三大学の公開講座は、短期大学で「口腔健診と口腔がん」、「よくわかる口腔がん～その診断と治療～」、「周術期口腔ケア」、「がんで命を落とさないために～健康長寿の秘密を追う医師が案内する腸のすごい世界～」(令和6年10月27日、参加者104名)、看護大学では「介護が必要になったときの準備、できていますか?～いざという時のために知っておきたいこと～」(令和6年7月27日、参加者134名)、歯科大学では「骨粗鬆症はなぜ恐ろしい?」、「歯科医師が悩む骨粗鬆症」(令和6年10月20日、参加者59名)を開催し、いずれも盛況となった。

② 大学連携で七隈線沿線三大学合同シンポジウムは「睡眠を良く知り、人生を大きく変え、健康寿命を高めよう!特に睡眠時無呼吸症候群について」、「閉塞性睡眠時無呼吸症候群治療の歯科における役割」、「2型糖尿病と肥満症における睡眠問題～臨床試験による病態の検討」(令和6年11月30日、参加者138名)を開催した。

○歯科大学

同窓生や開業歯科医師等を対象とした生涯研修やセミナー等を開催し、口腔医療を実践できる人材の育成と最新の医療情報の発信に努めた。令和6年度は5プログラム(「口腔インプラント初級講習会」、「画像診断をスキルアップしよう!撮影手順から診断まで」、「摂食嚥下リハビリテーションに役立つ知識」、「睡眠時無呼吸症候群マウスピース治療実践セミナー」、「歯周組織再生療法セミナー」)を開催し、69名が参加した。

○看護大学

昨年度に引き続いて、近隣の医療施設の看護

師を対象として「看護に活かせる口腔教育研修(基礎編)」および「看護に活かせる口腔教育研修(応用編)」を実施した。

また、産・官・学・民の連携を基盤とした社会貢献活動として、早良警察署、田村公民館、近隣の小・中学校とも連携し活動を開始しており、各活動は大学のホームページ、Instagramなどで発信し報告した。

○短期大学

(1) 自治体や医療・保健・介護・福祉等の職能団体との連携による社会貢献活動の推進

地域高齢者の「おしゃべりつく会」に月1回担当教員が講師として参加し、地域高齢者の健康維持に寄与した。また、「かふえ もりのいえ」の運営に協力し、学生がボランティアとして参加する等社会貢献活動に努めた。

(2) 時代のニーズにあった公開講座及び歯科衛生士の生涯教育に資するスキルアップ講座開催の推進

「常識をアップデート!～いま知ってほしい、お口のがん」をメインテーマとした公開講座を10月27日(日)に開催し、学内外から104名が参加した。また、歯科衛生士研修支援センターは、6月から令和7年2月にかけて計8回の研修を企画・実施し、延べ人数207名(新人72名、スキルアップ55名、復職80名)の参加があった。

○医科歯科総合病院

患者に満足される入院支援を実践するため、本院や地域医療機関の連携の会に参加し、地域医療機関との連携・協力を進めた。

サンシャインシティでは言語聴覚士による嚥下評価、多職種によるミールラウンドを行うなど、サンシャイン各施設の入所者のQOLを向上する取り組みに協力した。

健診センターでは、地域企業、市民への定着化と受診者の定期受診に繋がるよう、企業担当者との綿密な連絡調整による円滑な受け入れ、健診当日の丁寧な応対を心掛け、満足される対応を実践した結果、令和6年度は一般の健診受診者が増加した。

○老健施設

地域住民への啓発として、9月以降、福岡市よかトレ実践ステーションの認定を受け、施設内でのかんたん体操を毎月2回(第1及び第3金曜日)実施した。

4) 社会連携への取り組み

(1) 大学連携事業

① 「地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会」(中

村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学)においては、三大学の特色を生かした教養系共同開講授業科目「食と栄養と健康」を中村学園大学において8月20日、21日の2日間に渡り実施し、本学からは82名の学生が受講した。

②「西部地区五大学連携懇話会」(九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学)においては、引き続き単位互換科目「福博の歴史文化探訪」と五大学共同開講授業科目「博多学」を開講し、本学からは合計53名の学生が受講した。

③訪問歯科センターは、福岡市から委託された小呂島離島診療についても専門診療科のサポートのもと派遣歯科医師体制の整備を行い、島民の健康維持に貢献した。

(2) 地域包括ケアシステムの構築支援

地方自治体、医療・介護・福祉団体及び地域での多職種連携を基盤とした地域包括ケアシステムの構築のため、下記のような支援を行った。

①福岡市歯科口腔保健推進協議会に令和5年度に続き、オンライン開催の会議に参加した。
②早良区地域保健福祉課・福岡市歯科医師会早良支部・福岡県歯科衛生士会との学官民連携による早良区高齢者オーラルフレイル予防事業については、早良区の開業医から送られてきた8件の口腔機能検査結果を分析し、早良区歯科医師会オーラルフレイル予防事業委員会に報告した。

5) 国際連携の推進

○歯科大学

コロナ禍で交流を中止していたリバプール大学を令和7年11月に理事長、担当教員等が訪問し、学生交流協定の再締結を行った。

令和7年度からの国際交流推進の再開に向け、協定締結大学との相互派遣交渉を行った。リバプール大学、ブリティッシュコロンビア大学、中国医科大学、上海交通大学、慶熙大学の5つ

の協定締結大学との交渉を進めており、派遣概要、日程等の調整及び派遣学生の選考等を進めた。

○看護大学

令和6年8月にラオス共和国における認定NP0法人ジャパン・ハート活動を、11月には協定を締結済みのリバプール大学を、それぞれ教員が訪問することで、令和7年度からの学生の海外での活動の基盤を築いた。

また学生の国際感覚を涵養するために、令和6年5月にジャパン・ハート、9月にはNP0じやっどの、いずれもラオス共和国における医療および保健活動に関する講演会を行った。

○短期大学

(1) 海外協定校の開拓

2月に専攻科生12名と引率教員2名が参加し、台湾での研修旅行を実施し、訪問校の中から協定校候補を検討する予定だったが、協定校として適切な大学がなかったため、引き続き検討することとした。

(2) 開発途上国等でのボランティア活動の検討

6月に学長のミャンマー医療支援に短大教員2名、病院歯科衛生士1名が同行し、歯科医療ボランティアを行い、その実績に基づき、12月は、短大教員1名、病院歯科医師1名および専攻科生2名が同行し、歯科医療ボランティアを行った。

(3) 海外研修派遣

令和元年12月から世界的に流行が始まった「新型コロナウイルス感染症」が5類へ移行したことにより、海外渡航の制限が緩和され、令和6年度は延べ34名の教職員及び大学院生を海外に研修派遣した。また、第2種研修派遣(1月以上1年以内の国内派遣)として、大学院生2名を派遣した。(別表5)

5. 組織運営及び財務・施設整備

1) ガバナンス強化の推進

○法人

(1) 寄附行為及び内部統制システムの整備

学校法人のガバナンス強化のため、令和5年に改正された私立学校法(施行日令和7年4月1日)に基づき、本学の寄附行為変更認可申請を文部科学省に提出し、令和7年3月7日付で認可を受けた。また、内部統制システム整備の基本方針を策定した。

(2) ガバナンス・コード(第2.0版)の運用

日本私立大学協会が策定した私立大学ガバナンス・コード第2.0版について、学園3大学は

令和7年4月から遵守状況を点検し、運用することとした。

(3) 情報公開の充実

教員の研究業績公開について、科学技術振興機構が運営するresearch-mapと連携が取れる新システムを導入した。

○看護大学

学長のリーダーシップのもと、引き続き教育活動の見える化を行い、成果を速やかに提示するため、研究チーム作りに関するFDを実施し、研究者の共同研究推進を支援した。またその発

信手段として、年報を発行した。

○短期大学

学長を委員長とする学務・FD委員会の教育改善作業部会において、次年度以降の教育課程の適正について検討し、令和7年度入学者の教育課程改正および3年次の臨床実習実施形式一部変更を決定した。

2) 教員組織・事務組織の再編並びに業務の見直し

○法人

(1) 事務体制の見直し

事務の効率化に向けて、各課の業務内容や職員の事務処理能力等を踏まえ、解剖実習にかかる一部業務を外部委託したほか、適材適所への配置換及び昇任人事を行った。

(2) 任期制教員の再任

任期満了となる教員（歯科大学：教授4名、准教授4名、講師4名、助教9名）（短期大学：講師1名、助手1名）の再任について、審議の結果、申請者全員を再任した。

(3) 人材育成

能力向上セミナー等の外部主催の研修に事務職員が99名参加した。（別表6）学内では、デジタル技術の修得を目的として7月に「Microsoft365の活用について」を、7月から11月にかけて成果発表会を含め11回に亘り事務DX勉強会を実施した。また、ハラスメント防止対策として、7月に管理職を対象とした「アンガーマネジメント研修」を、9月には一般職員を対象に「メンタルヘルス研修」を実施したほか、働きやすい職場づくりのための「コミュニケーション研修」を実施するなど、計画に基づき各種研修を実施し、ポジティブな職場環境の構築に努めた。なお、一部ビデオ受講を可能にし、受講率の向上を図った。（別表7）また、西部地区五大学連携懇話会の職員研修「ファシリテーション研修」等、他大学と連携した研修に事務職員2名が参加した。（別表8）

(4) 役員、顧問、学長、役職教員等の選任

① 理事・評議員・顧問の選任及び辞任

ア) 坂上竜資氏の令和7年3月31日2号理事、2号評議員辞任に伴い、鳥巢浩幸氏を2号理事、4号評議員に選任することが、第613回理事会及び第186回評議員会（令和7年3月開催）において決定。任期は令和7年3月26日から令和7年度最初の定時評議員会終結の時まで。

イ) 前原喜彦氏の令和6年4月30日評議員辞任に伴い、後任として吉住朋晴氏を選任することが第603回理事会（令和6年5月開催）において決定。任期は、令和6年6月1日から令和

7年度最初の定時評議員会終結の時まで。

ウ) 平田泰彦氏が令和6年6月15日に辞任。

② 顧問の選任

ア) 第612回理事会（令和7年2月開催）において、令和7年4月1日付けで病院顧問に阿南壽氏を、また、情報顧問（非常勤）に藤村直美氏を再任することを決定した。任期は1年間。

イ) 令和7年3月31日顧問（弁護士）の任期満了に伴い、木下明氏を再任することが第612回理事会（令和7年2月開催）において決定。任期は令和7年4月1日から3年間。

③ 役職教員等の選任

ア) 第612回理事会（令和7年2月開催）において、令和7年4月1日付けで病院長に鳥巢浩幸氏（小児科学分野・教授）、福岡歯科大学の学生部長に稲井哲一朗氏（機能構造学分野・教授）、情報図書館長に米田雅裕氏（総合歯科学分野・教授）、口腔・歯学部門長に玉置幸雄氏（矯正歯科学分野・教授）、全身管理・医歯学部門長に香川豊宏氏（口腔画像診断学分野・教授）、社会・基礎医歯学部門長に日高真純氏（分子機能制御学分野・教授）を選任した。任期は米田雅裕氏（令和8年3月まで）を除き2年間。

イ) 第612回理事会（令和7年2月開催）において、令和7年4月1日付けで副病院長に樋口勝規氏（客員教授）〔医療安全・危機管理担当〕、中畑高子氏（客員教授）〔診療支援部門担当〕を再任することを決定した。任期は1年間。

ウ) 第781回常任役員会（令和7年2月開催）において、令和7年4月1日付けで口腔医学研究センター長に平田雅人氏（客員教授）、副長に日高真純氏（分子機能制御学分野・教授）を再任、また、アニマルセンター長に田中芳彦氏（感染生物学分野・教授）を再任することを決定した。任期は2年間。但し、客員教授は1年間。

エ) 第613回理事会（令和7年3月開催）において、令和7年4月1日付けで福岡看護大学の学部長に宮園真美氏（地域・在宅看護部門・教授）、学生部長に荒川満枝氏（基礎看護学分野・教授）、情報図書館長に晴佐久悟氏（基礎・専門基礎分野・教授）、基礎・基礎看護部門長に青木久恵氏（基礎・専門基礎分野・教授）、健康支援看護部門長に内田莊平氏（成人看護学分野・教授）、地域・在宅看護部門長に吉田大悟氏（地域・在宅看護部門・教授）、教育支援・教学IR室長に荒川満枝氏（基礎看護学分野・教授）、大学院研究科長に飯野英親氏（小児看護学分野・教授）を選任した。任期は2年間。

オ) 第612回理事会（令和7年2月開催）において、令和7年4月1日付けで福岡医療短期大学の歯科衛生学科長に古野みはる氏（歯科衛生

学科・教授）を選任した。任期は残任期間の1年間。

カ）第783回常任役員会（令和7年3月開催）において、令和7年4月1日付けで福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学保健管理センター長に得能智武氏（内科学分野・教授）を再任した。任期は2年間。

④ 老健施設長の再任

第783回常任役員会（令和7年3月開催）において、令和7年4月1日付けで施設長に岡田賢司氏を再任した。任期は1年間。

○看護大学

（１）労働環境

保健管理センターと共に合理的配慮について検討し、自立した個性を尊重し、差別のない教育環境及び働きやすい教育環境の整備に取り組んだ。また、長時間労働の抑制及び年次有給休暇等の取得促進に取り組み、業務内容、人員、時間を見直し、業務の簡略化・効率化を図った。

（２）人員管理

昨年度に引き続き、教員移動や組織改編時、教員を雇用する際には、人件費比率に基づいたポイント制により透明性の高い人員配置を行った。各分野の教育負担に応じたポイント配分は常に見直した。

また、SDGs推進室では、引き続き性差や個性に対応した取り組みの検討を実施し、教員の能力に対応した職務や職責を考慮できる体制を構築した。

（３）人材育成

科研費採択のためのFDは定期的の実施しており、アドバイザー制度を継続し、科研申請者の支援を行い、助教以上の教員30人中19人（63.3%）が科研費を獲得した。

○短期大学

（１）業務負担の平準化、計画的年次休暇の取得推進

教職員間で仕事の内容等情報を共有し、相互に補助しつつ、適正に年次休暇を消化した。

（２）組織力を高めるための人材育成

体系的なFD・SD計画に基づき、今年度は学内5件、学園開催13件のFD・SDの各対象者に積極的参加を促し、優秀な人材育成に努めた。

○医科歯科総合病院

病院は、役割と責任を明確化するため、薬局を診療支援部門から独立させ病院長直下に置き、組織名を薬剤部に変更した。

また、看護師主任の役職名を副看護師長に

改称した。

病院事務課は、医療従事者の後方支援として病院の健全な経営に寄与するため、管理係、医事係、医療情報係、病診連携係等の各係で分担していた管理的業務を昨年度新設した総務係への集約をすすめ、各係が専門業務に集中できる環境を整備した。

○老健施設

7月以降入所者・通所利用者増及び収支改善のため、令和6年7月から令和7年4月まで、コンサルタント会社との経営コンサルティング契約を締結し、月1回の稼働アッププロジェクト会議及び業務改善プロジェクト会議において収支改善等に向けた検討を行った。

3）第3者評価の受審

○歯科大学

アセスメントプランの作成及び担当委員会における検証を実施し、自己点検・評価委員会で点検・評価を実施した。

また、内部質保証にかかるPDCAサイクルの一環として大学基準協会の評価項目に則って作成した「福岡歯科大学の現状と課題‘23」をホームページで学内外に公開した。

その他、令和8年度に受審する予定の分野別歯学教育評価に向けて自己点検・評価委員会において、受審までのスケジュール、点検評価報告書の様式等を委員会内で共有、共通の認識とし、来年度に取り組むべき点についての準備を進めた。

○看護大学

令和4年度に受審した大学基準協会の機関別認証評価における改善課題について自己点検・評価委員会等において検討した改善策を実施し、大学基準協会へ改善報告書を提出した。その結果、「改善の成果が十分表れているといえる。」との評価を得た。

また、「福岡看護大学 点検・評価報告書‘22 改善報告書」の結果に基づき、令和5年度の自己点検・評価を行って、大学基準協会の新たな評価項目をもとに「現状と課題‘23」を作成し、ホームページ上で公開した。

その他、令和5年度に設置した外部評価委員会を開催し、6名の有識者から点検・評価を受けた。

○短期大学

（１）認証評価結果を踏まえた内部質保証の推進

各委員会が各々の役割を全うすることに努めた結果、事業計画達成目標を概ね達成する

ことができた。

（２）2028 年度（令和 10 年度）認証評価受審

自己点検・評価委員会を中心として、短大教職員全員が関わり作成した「福岡医療短期大学の現状と課題2022・2023」を12月に完成し、理事長に完成報告後、令和 7 年 1 月の理事会まで報告し、ホームページにて公表した。

○医科歯科総合病院

令和 5 年度の病院機能評価における評価結果を踏まえ、病院機能改善検討委員会において改善策を協議、実施し、病院機能の改善を図り、令和 7 年 3 月に「認定期間中の確認」を完了し、日本医療機能評価機構へ報告した。

今後の特定共同指導、適時調査の受審に向け、適切な診療録の記載を徹底することを任務とする診療録記載管理委員会を設置した。

4) 財政基盤の安定化

（１）収支改善

① 福岡歯科大学

奨学寄付金 17 件（21,405 千円）、受託研究 7 件（42,360 千円）を受け入れた。

② 福岡看護大学

配分される研究費を有効に運用するために使用計画や会計報告に関する共通認識を徹底し、管理基盤の透明化を図った。有効な予算運用が可能となった電子教科書導入によるペーパーレス化によって講義資料の膨大な印刷量を減少させることができた。

また、受託研究 3 件（4,810 千円）を受け入れた。

③ 福岡医療短期大学

収支改善の要となる入学定員充足に向けて入試委員会にて検討を行い、社会人選抜の追加や5・6月オープンキャンパス開催日追加等学生募集活動の見直しを行った結果、歯科衛生学科98名、専攻科20名の入学者を確保し定員を充足した。

④ 医科歯科総合病院

病院は、診療報酬改定により新たな加算が見込まれる施設基準の要件を精査、対応策を検討し、準備が整った事項から届出を行った。

医事業務委託者の業務の状況を把握し、委託事業者の責任者に改善案を提案し、医事業務の質及び患者サービスの向上を図った。

歯科部門 12 診療科のうち 8 診療科で、医科部門 11 診療科のうち 4 診療科及び健診部門で目標を達成し、病院収入は対前年 109.4%の 2,636,467 千円であった。

また、治験研究 1 件（220 千円）を受け入れた。

⑤ 介護老人保健施設

7 月にコンサルタント会社と経営コンサル

ティング契約を締結し、9 月以降は施設類型を加算型に 1 ランク落として入所者増を目指すことで収支改善に努めた結果、1 月末までに月平均入所者が目標値である 60 名に達したが、2 月末以降約 1 か月に渡るコロナウイルス感染症のクラスターの影響により、年間の 1 日当平均入所者は 50.7 名に留まった。

（２）寄付金の受入れ

学園ホームページで卒業生、保護者を含む広く一般の方々への寄付金募集を行い、3 月末までの個人寄付は、36 件、1,726 千円となった。

個人寄付内訳（寄付目的別）は表 10 のとおり。

表 10 個人寄付内訳（寄付目的別）（単位：千円）

区 分	歯科大	看護大	短大	病院	計
教育研究活動振興	1,008	100	23	0	1,131
教育研究環境整備	116	3	3	0	122
田中健蔵基金	113	0	0	0	113
その他	0	0	0	360	360
計	1,237	103	26	360	1,726

この他、外郭団体の福岡歯科大学学生共済会から 105,613 千円【修学支援事業（特待生・SA）：102,940 千円、学生研修センター維持整備事業等：2,673 千円】の寄付があった。

5) 新キャンパス整備計画の促進

○法人

（１）新キャンパス整備計画

第 563 回理事会及び第 173 回評議員会（令和 3 年 5 月開催）の議を経て、校舎・施設・設備の刷新と教育・研究機能の向上を目的として「本館」、「体育館」、「アニマルセンター」等を順次新築するキャンパスの整備計画については、1 期工事である新本館建設（歯科大学及び短期大学の校舎として共用）は、用途に応じた各室配置、スイッチやコンセント等のプロット、家具の選定打合せと並行し、土壌汚染対策に関する各種申請・届出手続きを遅滞なく実施するとともに、外構、外装、内装工事を計画どおり進め、3 月末現在の出来高はおおよそ 68%となっており、令和 7 年 7 月竣工に向け順調に進捗している。また、7 年 8 月の移転を視野に各種引越準備も開始した。

（２）既存施設・設備の改修・更新

① 短大歯科診療実習室エアコン改修

歯科診療実習室の老朽化対策としてエアコンの改修を行った。当該エアコン機器は次年度旧病院棟に設置予定の介護実習室へ移設のうえ再利用することとした。

② 病棟トイレ電源改修工事

病棟トイレが停電時にも使用できるよう、非常用電源からの電源供給へ切り換える工事を行い、入院者の利便性の向上を図った。

③ 麻酔科医局設置工事

手術室に近い病院 4 階に麻酔科医局を新設する工事を行った。

④ 病院守衛室改修工事

病院 1 階守衛室に守衛の休憩スペースを整備し、就業環境の改善を図った。

⑤ 病室の陰圧整備

病棟個室 1 室の陰圧環境を強化し、感染症患者の受入体制を充実させた。

6) その他

(1) 福岡学園開学記念式典の実施

学園の開学記念式典を7月26日に実施し、永年勤続表彰及び特待生表彰等を行い、学内外から約187名の参加者があった。

(2) 歯科大学名誉教授称号授与

教育上又は学術上特に功績があった者に付与される名誉教授の称号について、尾崎正雄氏、小島寛氏が推薦され、第 605 回理事会(令和 6 年 6 月開催)で決定し、令和 6 年 7 月 26 日の開学記念式典で授与された。

(3) 学園全体での防災訓練の実施

10月24日に教職員107名が参加して、学園全地区隊を対象とした防災訓練(避難訓練・消火訓練・土のう作成訓練)を実施した。

なお、国土交通省作成の浸水ガイドラインにおいて病院地区が浸水エリアに指定されているため、浸水対策訓練として「土のう作成・設置訓練」を実施した。

(4) エネルギー使用量の削減

エネルギー使用量は、夏季の気温上昇(7月～10月 前年度比 1.2℃)及び冬季の気温低下(12月～2月 前年度比 2.2℃)により空調用エネルギーの使用が増加し、前年度比 電気 0.8%、ガス 11.1%それぞれ増となり、電気とガスの使用量を原油換算しエネルギー使用量の合計で比較すると 3.4%増となった。料金は、国の補助金(9月～11月、1月～3月)により減額されたが、使用量の増加と燃料費の高騰により電気 8.7%、ガス 27.4%それぞれ増となった。

省エネに関しては、エネルギー管理委員会を毎月開催し、エネルギーの使用状況の把握に努めるとともに、病院一記念講堂間熱融通の運用を含めた省エネ対策を実施した。

このほか、新本館は ZEB Oriented (ゼブ オリエンテッド) 認証を見据え、設備計画においては太陽光パネルの設置のほか、省エネに資す

る空調熱源や照明器具等の選定、配置等を行った。

(5) 化学物質等にかかるリスクアセスメント再評価の実施依頼

令和 6 年度新規リスクアセスメント対象物質に対するリスクアセスメントを実施し、結果が健康被害に影響があるリスクレベルⅢ以下の場合、健康被害に影響の少ないⅡ以上になる様に実験方法の再検討を依頼した。

また、保護具着用管理責任者を選任し、保護具着用に関する説明会を開催した。

(6) 情報化組織及び管理体制の整備・充実

安全・安心な学内LANを維持するため、来年度保守期限が切れるSSL-VPN装置については利用状況やセキュリティ等を勘案し撤去することを、内部ネットワーク不審通信機器についても更新せずネットワーク設計を伴う既存機器機能を利用することを決定した。セキュリティについて見直しを行い、既存機器の機能を利用することでプロキシサーバを撤去した。

学内LANの学外接続について、SINET経由のみであったが、故障等に備えバックアップ回線として商用回線を導入した。

また、国際学術無線LANローミング基盤「eduroam」に加盟し、加盟機関が本学で無線LANを利用できる環境及び加盟機関に訪問した際に本学構成員が無線LANを利用できる環境を構築した。

(7) 厚生労働省補助事業「歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業」

標記補助金事業に令和5年度に引き続き採択され、昨年1月に設置した福岡医療短期大学歯科衛生士研修支援センターにより6月から令和7年2月にかけて計8回の研修を企画・実施し、延べ人数207名(新人72名、スキルアップ55名、復職80名)の参加があった。

Ⅲ. 財務の概要

1. 決算の概要

1) 貸借対照表関係

(1) 貸借対照表の状況と経年比較

令和6年度の資産の部では、有形固定資産は本館建設工事に係る中間払金などにより50億6,800万円の増、特定資産は病院・記念講堂・本館建設工事に係る借入金の返済に伴い、引当特定資産を取崩したことにより、10億7,100万円の減となった。負債の部では、病院・記念講堂・本館建設資金の借入金11億4,300万円を返済したが、新たに本館建設資金として60億円を借入れたことにより、固定負債が49億3,800万円の増となった。純資産の部では、基本金に病院・記念講堂・本館建設工事に係る借入金返済分などを組入れたことにより、繰越収支差額が21億300万円の減となった。

(単位:千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定資産	64,854,525	66,483,485	64,760,654	64,103,092	68,015,635
流動資産	2,040,237	1,983,074	1,800,517	2,298,601	2,329,713
資産の部合計	66,894,762	68,466,559	66,561,171	66,401,693	70,345,348
固定負債	6,783,802	8,151,459	7,259,787	7,694,790	12,632,609
流動負債	1,742,173	2,106,189	1,858,538	2,247,672	2,186,593
負債の部合計	8,525,975	10,257,648	9,118,325	9,942,462	14,819,202
基本金	58,171,191	59,161,488	60,692,306	53,327,008	54,497,263
繰越収支差額	197,596	△ 952,577	△ 3,249,460	3,132,223	1,028,883
純資産の部合計	58,368,787	58,208,911	57,442,846	56,459,231	55,526,146
負債及び純資産の部合計	66,894,762	68,466,559	66,561,171	66,401,693	70,345,348

(2) 財務比率の経年比較

比率名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
運用資産余裕比率	455.6%	466.9%	441.1%	425.3%	343.7%
流動比率	117.1%	94.2%	96.9%	102.3%	106.5%
総負債比率	12.7%	15.0%	13.7%	15.0%	21.1%
前受金保有率	314.8%	289.8%	261.4%	315.8%	314.9%
基本金比率	90.5%	88.4%	90.0%	87.9%	81.8%
積立率	102.2%	99.9%	94.7%	112.5%	106.4%

2) 資金収支計算書関係

(1) 資金収支計算書の状況と経年比較

令和6年度決算における主な収入としては、学生生徒等納付金収入は福岡歯科大学及び福岡看護大学の在籍学生数の増により、前年度比6,500万円増の32億900万円、医療収入は歯科収入の増収などにより、前年度比1億5,500万円増の24億9,200万円となり、借入金等収入60億円は本館建設工事費の支払に充当するための日本私立学校振興・共済事業団からの借入である。一方、主な支出では、人件費支出は昇給等による職員人件費8,300万円の増、長期勤続者の依願退職などに伴う退職金7,600万円の増などにより、前年度比1億6,600万円増の46億500万円、施設関係支出は本館建設工事の中間払金60億円など、前年度比44億9,800万円増の60億1,100万円となった。

(単位:千円)

収入の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	3,448,955	3,273,855	3,205,255	3,143,983	3,209,414
手数料収入	28,363	30,120	26,288	27,995	27,226
寄付金収入	65,921	98,091	96,194	85,908	129,857
補助金収入	478,498	524,117	626,138	516,526	555,309
資産売却収入	1,952,690	357,451	732,232	5,329,506	128,649
付随事業・収益事業収入	500,914	530,367	417,593	371,625	413,294
医療収入	1,833,901	2,425,577	2,425,051	2,336,650	2,491,828
受取利息・配当金収入	591,839	556,376	534,288	512,638	433,029
雑収入	277,939	241,720	190,514	167,385	314,969
借入金等収入	0	2,300,000	0	1,500,000	6,000,000
前受金収入	446,363	455,546	460,598	554,884	503,546
その他の収入	4,372,549	4,454,016	2,763,240	10,492,861	1,673,695
資金収入調整勘定	△ 1,081,654	△ 1,024,703	△ 978,330	△ 913,696	△ 1,121,437
前年度繰越支払資金	773,590	1,405,326	1,320,274	1,203,838	1,752,238
収入の部合計	13,689,868	15,627,859	11,819,335	25,330,103	16,511,617

支出の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	4,441,026	4,375,793	4,308,655	4,438,164	4,604,523
教育研究経費支出	2,738,149	1,956,038	2,134,677	2,209,237	2,236,364
管理経費支出	438,903	425,203	540,898	440,579	468,146
借入金等利息支出	20,087	18,521	22,733	19,779	25,648
借入金等返済支出	340,020	715,020	945,024	897,522	1,142,526
施設関係支出	782,489	2,605,774	681,463	1,512,680	6,011,029
設備関係支出	1,631,690	172,691	369,911	122,205	124,726
資産運用支出	1,852,400	4,133,700	1,332,232	13,996,357	223,063
その他の支出	507,406	492,797	642,378	374,773	483,033
資金支出調整勘定	△ 467,628	△ 587,952	△ 362,474	△ 433,431	△ 455,138
翌年度繰越支払資金	1,405,326	1,320,274	1,203,838	1,752,238	1,647,697
支出の部合計	13,689,868	15,627,859	11,819,335	25,330,103	16,511,617

(2) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

令和6年度決算における施設整備等活動資金収支差額は、本館建設工事の中間払金60億円などにより前年度比124億7,500万円減の△50億7,100万円、その他の活動資金収支差額は、本館建設工事費の支払に充当する借入金60億円などにより前年度比118億200万円増の52億6,200万円となった。

(単位:千円)

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	6,600,307	7,059,844	6,789,281	6,632,751	7,138,063
教育活動資金支出計	7,588,482	6,756,961	6,984,230	7,087,649	7,307,941
差引	△ 988,175	302,883	△ 194,949	△ 454,898	△ 169,878
調整勘定等	△ 117,375	62,620	△ 96,532	138,973	△ 126,393
教育活動資金収支差額	△ 1,105,550	365,503	△ 291,481	△ 315,925	△ 296,271

(単位:千円)

科 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
施設整備等活動による資金収支						
施設整備等活動資金 収入計		2,588,772	875,844	1,742,475	8,955,896	1,098,249
施設整備等活動資金 支出計		2,914,178	3,595,744	1,651,374	1,634,885	6,135,755
差引		△ 325,406	△ 2,719,900	91,101	7,321,011	△ 5,037,506
調整勘定等		△ 39,871	46,987	△ 111,940	83,277	△ 33,193
施設整備等活動資金 収支差額		△ 365,277	△ 2,672,913	△ 20,839	7,404,288	△ 5,070,699
小計（教育活動資金収支 差額＋施設整備等活動資金 収支差額）		△ 1,470,827	△ 2,307,410	△ 312,320	7,088,363	△ 5,366,970
その他の活動による資金収支						
その他の活動資金収入 計		3,882,626	6,293,420	1,910,676	8,395,454	6,689,952
その他の活動資金支出 計		1,780,130	4,070,495	1,714,540	14,935,988	1,426,730
差引		2,102,496	2,222,925	196,136	△ 6,540,534	5,263,222
調整勘定等		67	△ 567	△ 252	571	△ 793
その他の活動資金収支 差額		2,102,563	2,222,358	195,884	△ 6,539,963	5,262,429
支払資金の増減額（小計 ＋その他の活動資金収支 差額）		631,736	△ 85,052	△ 116,436	548,400	△ 104,541
前年度繰越支払資金		773,590	1,405,326	1,320,274	1,203,838	1,752,238
翌年度繰越支払資金		1,405,326	1,320,274	1,203,838	1,752,238	1,647,697

(3) 財務比率の経年比較

比率名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動資金収支差額比率	-16.7%	5.2%	-4.3%	-4.8%	-4.2%

3) 事業活動収支計算書関係

(1) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

令和6年度決算における事業活動収入は76億2,000万円、事業活動支出は85億5,300万円となり、基本金組入前当年度収支差額は△9億3,300万円となった。この額から基本金組入額合計11億7,200万円を差し引いた当年度収支差額は△21億500万円となり、これに前年度繰越収支差額31億3,200万円と基本金取崩額200万円を加えた翌年度繰越収支差額は10億2,900万円となった。

(単位:千円)

科 目		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	3, 448, 955	3, 273, 855	3, 205, 255	3, 143, 983	3, 209, 414
	手数料	28, 363	30, 120	26, 288	27, 995	27, 226
	寄付金	82, 653	120, 946	99, 458	100, 930	145, 917
	経常費等補助金	448, 773	466, 154	446, 044	515, 446	555, 309
	付随事業収入	500, 914	530, 367	417, 593	371, 625	413, 294
	医療収入	1, 833, 901	2, 425, 577	2, 425, 051	2, 336, 650	2, 491, 828
	雑収入	293, 875	244, 055	196, 430	162, 575	328, 858
	教育活動収入計	6, 637, 434	7, 091, 074	6, 816, 119	6, 659, 204	7, 171, 846
	事業活動支出の部					
	人件費	4, 450, 366	4, 396, 192	4, 368, 170	4, 478, 667	4, 649, 105
	教育研究経費	3, 542, 611	2, 945, 657	3, 184, 925	3, 245, 351	3, 237, 652
	管理経費	462, 660	497, 287	637, 735	549, 311	576, 442
	徴収不能額等	92	4, 334	6, 911	2, 177	3, 657
	教育活動支出計	8, 455, 729	7, 843, 470	8, 197, 741	8, 275, 506	8, 466, 856
	教育活動収支差額	△ 1, 818, 295	△ 752, 396	△ 1, 381, 622	△ 1, 616, 302	△ 1, 295, 010
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	591, 839	556, 376	534, 288	512, 638	433, 029
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	591, 839	556, 376	534, 288	512, 638	433, 029
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	20, 087	18, 521	22, 733	19, 779	25, 648
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	20, 087	18, 521	22, 733	19, 779	25, 648
	教育活動外収支差額	571, 752	537, 855	511, 555	492, 859	407, 381
経常収支差額		△ 1, 246, 543	△ 214, 541	△ 870, 067	△ 1, 123, 443	△ 887, 629
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	139	1	0	367, 243	0
	その他の特別収入	51, 797	74, 793	247, 987	29, 100	15, 021
	特別収入計	51, 936	74, 794	247, 987	396, 343	15, 021
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	408, 134	20, 055	143, 984	256, 185	59, 385
	その他の特別支出	29, 596	74	1	330	1, 092
	特別支出計	437, 730	20, 129	143, 985	256, 515	60, 477
	特別収支差額	△ 385, 794	54, 665	104, 002	139, 828	△ 45, 456
基本金組入前当年度収支差額		△ 1, 632, 337	△ 159, 876	△ 766, 065	△ 983, 615	△ 933, 085
基本金組入額合計		△ 84, 826	△ 990, 967	△ 1, 794, 016	△ 843, 820	△ 1, 171, 649
当年度収支差額		△ 1, 717, 163	△ 1, 150, 843	△ 2, 560, 081	△ 1, 827, 435	△ 2, 104, 734
前年度繰越収支差額		△ 1, 210, 245	197, 596	△ 952, 577	△ 3, 249, 460	3, 132, 223
基本金取崩額		3, 125, 004	670	263, 198	8, 209, 118	1, 394
翌年度繰越収支差額		197, 596	△ 952, 577	△ 3, 249, 460	3, 132, 223	1, 028, 883
(参考)						
事業活動収入計		7, 281, 209	7, 722, 244	7, 598, 394	7, 568, 185	7, 619, 896
事業活動支出計		8, 913, 546	7, 882, 120	8, 364, 459	8, 551, 800	8, 552, 981

(2) 財務比率の経年比較

比率名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費比率	61.6%	57.5%	59.4%	62.4%	61.1%
教育研究経費比率	49.0%	38.5%	43.3%	45.3%	42.6%
管理経費比率	6.4%	6.5%	8.7%	7.7%	7.6%
事業活動収支差額比率	-22.4%	-2.1%	-10.1%	-13.0%	-12.2%
学生生徒等納付金比率	47.7%	42.8%	43.6%	43.8%	42.2%
経常収支差額比率	-17.2%	-2.8%	-11.8%	-15.7%	-11.7%

2. その他

1) 有価証券の状況

有価証券の状況は以下のとおりである。

(単位:円)

種 類	当年度 (令和7年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債券	39,802,928,400	37,611,847,000	△ 2,191,081,400
株式	0	0	0
投資信託	0	0	0
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合 計	39,802,928,400	37,611,847,000	△ 2,191,081,400
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	39,802,928,400		

2) 借入金の状況

借入金の状況は以下のとおりである。

(単位:円)

借入先	期末残高	利 率	返済期限
日本私立学校振興・共済事業団	1,500,000,000	0.4100%	令和10年9月15日
日本私立学校振興・共済事業団	6,000,000,000	2.0000%	令和26年9月15日
西日本シティ銀行	1,699,900,000	0.2400%	令和12年3月31日
西日本シティ銀行	1,609,988,000	0.3000%	令和14年3月31日
西日本シティ銀行	1,350,000,000	0.48273%~ 0.89818%	令和16年3月31日
合 計	12,159,888,000		

3) 学校債の状況

なし

4) 寄付金の状況

寄付金の状況は以下のとおりである。

(単位:円)

科 目	金 額
特別寄付金	129,424,000
一般寄付金	432,896
合 計	129,856,896

5) 補助金の状況

補助金の状況は以下のとおりである。

(単位:円)

科 目	金 額
私立大学等経常費補助金	400,295,000
授業料等減免費補助金	51,353,100
学術研究振興資金	3,000,000
臨床研修費等補助金	44,017,000
県その他補助金	56,643,787
合 計	555,308,887

6) 収益事業の状況

なし

7) 関連当事者との取引の状況

(1) 関連当事者

記載すべき関連当事者との取引はない。

(2) 出資会社

なし

8) 学校法人間財務取引

なし

3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

令和6年度決算における主な収入では、学生生徒等納付金は福岡歯科大学及び福岡看護大学の在籍学生数の増により、前年度比6,500万円増の32億900万円、医療収入は歯科収入の増収などにより、前年度比1億5,500万円増の24億9,200万円となり、経常収入（教育活動収入・教育活動外収入）は76億500万円となった。一方、主な支出では、人件費は昇給等による職員人件費8,300万円の増、長期勤続者の依願退職などに伴う退職金7,600万円の増などにより、前年度比1億7,000万円増の46億4,900万円となり、経常支出（教育活動支出・教育活動外支出）は84億9,300万円となった。以上の結果、学校法人の経常的な収支バランス（教育活動収支・教育活動外収支）を示す経常収支差額は△8億8,800万円となった。

主な財務比率では、人件費比率61.1%、教育研究経費比率42.6%、管理経費比率7.6%、経常収支差額比率△11.7%となった。

また、令和6年度の総資産は703億4,500万円となり、教育研究の充実を目的として第3号基本金引当特定資産に237億500万円、減価償却資産の取替資金として減価償却引当特定資産に60億1,600万円など各種引当特定資産の積立を行っており、財政基盤の強化を図っている。

今後、収入面では、福岡歯科大学及び福岡医療短期大学における入学定員充足による安定した学生納付金の確保、補助金・寄付金等の外部資金の積極的な導入、医科歯科総合病院における医療収入の増収など財源の確保に努める。一方、支出面では、人件費については、人事計画に基づく人員配置及び人事考課制度の活用等により適正化を図り、その他の経常的な経費については、予算の効果的な執行及び不要不急の支出の抑制を図る。

本学園は、教育研究環境の向上及び将来的な施設、設備等の更新に伴う財源確保のため、一層の財政状況の改善を図り、永続的な維持・発展に向けて、安定した財政基盤の確立を目指す。

別表1 2024年研究業績(欧文)一覧

[福岡歯科大学]

1.総説(review含む)

※ 電子ジャーナルの場合、巻・号・ページは「-」で記載

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	The model core curriculum for dental education in Japan.	Akiyama H, Kawano F, Terunuma M, Hirata S, Hasegawa T, Tsuruta J, Taguchi N, Oto T, Noritake K, Satomura K, Ueda T, Onizuka C, Morita H	Journal of Japanese Dental Education Association	Special Issue	-	1-40	2024	10.24744/jdea.2024.Special.0_1
2	Recent advances in the diagnosis, pathogenesis, and management of myxoinflammatory fibroblastic sarcoma.	Nishio J, Nakayama S, Aoki M	International Journal of Molecular Sciences	25	2	1127	2024	10.3390/ijms25021127
3	Giant cell tumor of soft tissue: an updated review.	Nishio J, Nakayama S, Koga K, Aoki M	Journal of Clinical Medicine	13	10	2870	2024	10.3390/jcm13102870
4	Keratin-positive giant cell-rich tumor: A review and update.	Nishio J, Nakayama S, Koga K, Aoki M	Cancers	16	10	1940	2024	10.3390/cancers16101940
5	Atypical spindle cell/pleomorphic lipomatous tumor: A review and update.	Nishio J, Nakayama S, Chijiwa Y, Koga M, Aoki M	Cancers	16	18	3146	2024	10.3390/cancers16183146
6	Activities of the research group for comprehensive research of gene mutation-related rare and intractable diseases of the skin within the project for research on intractable diseases of the ministry of health, labor, and welfare of Japan.	Hashimoto T, Moriwaki S, Iwata H, Furumura M, Hayama K, Kanazawa N, Kambe N, Nomura T, Yoneda K, Kawakami T, Nakano H, Akasaka E, Tateishi C, Ota K, Shintani A, Tsuruta D	The Keio Journal of Medicine	-	-	-	2024	10.2302/kjm.2024-0016-IR
7	Tumor microenvironment of ameloblastoma with a focus on osteoclastogenesis, cell migration, and malignant transformation.	Yoshimoto S, Okamura K	Journal of Oral Biosciences	66	2	314-319	2024	10.1016/j.job.2024.05.002
8	Roles of nutrition-sensing receptor GPRC6A in energy metabolism and oral inflammatory diseases.	Mizokami A, Otani T, Mukai S, Hirata M	Current Oral Health Reports	11	4	306-311	2024	10.1007/s40496-024-00386-z

2.原著

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Development of a school-based online periodontal education programme for adolescents.	Haresaku S, Chishaki A, Hatakeyama J, Yoshinaga Y, Yoshizumi J, Yamamoto M, Matsuzaki E, Hamanaka I, Tsutsumi T, Taniguchi Y, Ohgi K, Yoneda M	International Dental Journal	-	-	-	2024	10.1016/j.identj.2024.07.002
2	Effect of continuous intake of lactobacillus salivarius WB21 on tissues surrounding implants: A double-blind randomized clinical trial.	Taniguchi Y, Suzuki N, Kakura K, Tanabe K, Ito R, Kashiwamura T, Fujimoto A, Naito M, Yoneda M, Hanioka T, Kido H	Life	14	12	1532	2024	10.3390/life14121532
3	Modeling of calcium phosphate based on an LCD 3D printer using brushite and calcium hydroxide.	Otsuka Y, Masuzaki T, Nishimura M, Kono H, Kikuchi M	Journal of the Australian Ceramic Society	60	5	1689-1696	2024	10.1007/s41779-024-01076-w
4	Relationship between clinical course of treatment for burning mouth syndrome in early period and aggression using rosenzweig picture frustration study: A retrospective observational study.	Umezaki Y, Egashira R, Motomura H, T Tu T, Naito T	Cureus	16	5	e60174	2024	10.7759/cureus.60174
5	Evaluation of the oral health education programme for nurses using an oral lesion simulator.	Haresaku S, Naito T, Miyoshi M, Aoki H, Monji M, Nishida A, Kono Y, Kayama M, Umezaki Y	Oral Health and Preventive Dentistry	22	-	203-210	2024	10.3290/j.ohpd.b5458567
6	Development of interprofessional education programmes in nursing care and oral healthcare for dental and nursing students.	Haresaku S, Naito T, Aoki H, Miyoshi M, Monji M, Umezaki Y, Miyazono M, Egashira R, Chishaki A	BMC Medical Education	24	1	381	2024	10.1186/s12909-024-05227-2
7	Efficacy of an electric toothbrush with monitor in dental plaque removal: a crossover randomized controlled trial.	Yoshinaga Y, Oyama A, Ohgi K, Maruo N, Yamato H, Tsuchimochi N, Nakagami M, Sakagami R	Cureus	16	2	e55278	2024	10.7759/cureus.55278

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
8	Bioactive self-polymerizing resin with surface pre-reacted glass ionomer fillers for suppressed enamel demineralization.	Kaga N, Kaga M, Morita S, Nagano-Takebe F, Nezu T, Endo K, Matsuura T	Materials	17	20	5101	2024	10.3390/ma17205101
9	FANCD2 counteracts O6-methylguanine-induced mismatch repair-dependent apoptosis.	Morita S, Fujikane R, Uechi Y, Matsuura T, Hidaka M	Molecular Biology Reports	51	1	745	2024	10.1007/s11033-024-09682-4
10	Creating 3D constructs with cranial neural crest-derived cell lines using a bio-3D printer.	Taguchi M, Yoshimoto S, Suyama K, Sumi S, Ohki S, Ogata K, Fujimoto R, Murata D, Nakayama K, Oka K	Journal of Oral Biosciences	66	2	339-348	2024	10.1016/j.job.2024.05.005
11	Bloom syndrome DNA helicase mitigates mismatch repair-dependent apoptosis.	Uechi Y, Fujikane R, Morita S, Tamaoki S, Hidaka M	Biochemical and Biophysical Research Communications	723	-	150214	2024	10.1016/j.bbrc.2024.150214
12	Inhibition of compound action potentials in the frog sciatic nerve by inchinkoto, a traditional Japanese medicine used for oral mucositis.	Nishimura M, Taniguchi S, Tamaoki S, Fujita T	Journal of Oral Biosciences	66	2	420-429	2024	10.1016/j.job.2024.03.001
13	Relationship between tumor thickness on images and cellular dissociation grading composing of tumor budding and cell nest size in early tongue cancer.	Yokoo Y, Yuasa K, Ohno J, Ikebe T	Oral Science International	21	1	68-77	2024	10.1002/osi2.1180
14	Relationships of weight change from 20 years of age with the risks of all-cause and cardiovascular mortality in patients with chronic kidney disease.	Okamura K, Tanaka S, Kitamura H, Hiyamuta H, Tsuruya K, Nakano T, Kitazono T, Fukuoka Kidney Disease Registry (FKR) Study Collaboration Group	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	31	7	1072-1086	2024	10.5551/jat.64571
15	History of fragility fracture is associated with cardiovascular mortality in hemodialysis patients: The Q-cohort study.	Haruyama N, Nakayama M, Yamada S, Tanaka S, Hiyamuta H, Taniguchi M, Tokumoto M, Tsuruya K, Kitazono T, Nakano T	Journal of Bone and Mineral Metabolism	42	2	253-263	2024	10.1007/s00774-024-01501-x
16	Association between hemoglobin A1c and renal arteriolar sclerosis in subjects presenting without any apparent kidney dysfunction.	Matsukuma Y, Tsuchimoto A, Masutani K, Ueki K, Tanaka S, Haruyama N, Okabe Y, Nakamura M, Kitazono T, Nakano T	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	31	8	1215-1224	2024	10.5551/jat.64236
17	Association between glycated albumin and sudden death in patients undergoing hemodialysis.	Kaizu Y, Nagata M, Kaizu S, Qie Y, Kaizu K, Tanaka S, Nakano T, Kitazono T	Clinical and Experimental Nephrology	28	7	656-663	2024	10.1007/s10157-024-02475-w
18	Effect of smoking status on clinical outcomes after reperfusion therapy for acute ischemic stroke.	Irie F, Matsuo R, Mezuki S, Wakisaka Y, Kamouchi M, Kitazono T, Ago T, the Fukuoka Stroke Registry Investigators, Ooboshi H	Scientific Reports	14	1	9290	2024	10.1038/s41598-024-59508-3
19	Associations between the serum triglyceride level and kidney outcome in patients with chronic kidney disease: The Fukuoka kidney disease registry study.	Seki M, Nakano T, Tanaka S, Kitamura H, Hiyamuta H, Ninomiya T, Tsuruya K, Kitazono T	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	31	11	1556-1570	2024	10.5551/jat.64625
20	Combined evaluation of glomerular phospholipase A2 receptor and immunoglobulin G subclass in membranous nephropathy.	Ueki K, Tsuchimoto A, Matsukuma Y, Ataka E, Okamoto H, Tanaka S, Masutani K, Kitazono T, Nakano T	Clinical Kidney Journal	17	6	sfae104	2024	10.1093/ckj/sfae104
21	Disturbance in the potential cardiovascular-bone-skeletal muscle axis and morbidity and mortality in patients undergoing haemodialysis: The Q-cohort study.	Arase H, Yamada S, Taniguchi M, Ooboshi H, Tsuruya K, Kitazono T, Nakano T	Clinical Kidney Journal	17	6	sfae154	2024	10.1093/ckj/sfae154
22	Estimated potassium intake and the progression of chronic kidney disease.	Suenaga T, Tanaka S, Kitamura H, Tsuruya K, Nakano T, Kitazono T	Nephrology, Dialysis, Transplantation	-	-	-	2024	10.1093/ndt/gfae277
23	Blood hemoglobin concentrations and the incidence of lower extremity peripheral arterial disease in patients undergoing hemodialysis: 10-year outcomes of the Q-cohort study.	Kohara C, Yamada S, Tanaka S, Hiyamuta H, Kitamura H, Arase H, Shimamoto S, Taniguchi M, Tsuruya K, Kitazono T, Nakano T	Journal of the American Heart Association	13	15	e033853	2024	10.1161/JAHA.123.033853
24	Impact of age on prescribing patterns of cardiovascular medications in older Japanese patients with non-dialysis-dependent chronic kidney disease: A cross-sectional study.	Tanaka S, Kitamura H, Tsuruya K, Kitazono T, Nakano T	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	31	10	1427-1442	2024	10.5551/jat.64798

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
25	Vascular calcification is accelerated by hyponatremia and low osmolality.	Matsueda S, Yamada S, Torisu K, Kitamura H, Ninomiya T, Nakano T, Kitazono T	Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology	44	9	1925-1943	2024	10.1161/atvba ha.123.320069
26	Association between vascular calcification and intraplaque hemorrhage in coronary atherosclerosis from autopsy: The Hisayama study.	Nakano T, Kitamura H, Hata J, Maki K, Oda Y, Kitazono T, Ninomiya T	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	31	8	1225-1237	2024	10.5551/jat.64 394
27	Outpatient treatment of mild dysphagia in ear-nose-and-throat clinics.	Yamano T, Nishi K, Omori F, Nakamura A, Fukuyo K	Cureus	16	1	e52395	2024	10.7759/cureu s.52395
28	Oral health and swallowing function of nursing home residents.	Yamano T, Nishi K, Kimura S, Omori F, Wada K, Tanaka M, Tsutsumi T	Cureus	16	6	e62600	2024	10.7759/cureu s.62600
29	Pharyngeal complications following two-jaw surgery.	Yamano T, Tanaka T, Kimura S, Omori F, Wada K, Yokoo Y, Izumi K, Nakamichi C, Ikeda M	Cureus	16	12	e76539	2024	10.7759/cureu s.76539
30	Effect of tongue-hold swallow on laryngeal elevation during swallowing in healthy older men.	Omori F, Fujiu-Kurachi H, Hirata A, Yamano T	Cureus	16	8	e68245	2024	10.7759/cureu s.68245
31	Effectiveness of outpatient treatment in ear, nose, and throat clinics for dysphagia and the role of questionnaires.	Yamano T, Kimura S, Wada K, Omori F, Nakamura A, Fukuyo K	Cureus	16	8	e66369	2024	10.7759/cureu s.66369
32	Developing quantitative analysis program of blood flow velocity according to vessel diameter for neovascular age-related macular degeneration using OCTA-VISTA.	Tanaka F, Mino T, Moriguchi Y, Nagahama H, Tamura M, Oshima Y, Akiba M, Enaida H	Scientific Reports	14	1	16352	2024	10.1038/s4159 8-024-67271-8
33	ATP1A3 regulates protein synthesis for mitochondrial stability under heat stress.	Fujii F, Kanemasa H, Okuzono S, Setoyama D, Taira R, Yonemoto K, Motomura Y, Kato H, Masuda K, A Kato T, Ohga S, Sakai Y	Disease Models & Mechanisms	17	6	dmm050574	2024	10.1242/dmm. 050574
34	An N-terminal and ankyrin repeat domain interactome of Shank3 identifies the protein complex with the splicing regulator Nono in mice.	Okuzono S, Fujii F, Setoyama D, Taira R, Shinmyo Y, Kato H, Masuda K, Yonemoto K, Akamine S, Matsushita Y, Motomura Y, Sakurai T, Kawasaki H, Han K, A. Kato T, Torisu H, Kang D, Nakabeppu Y, Ohga S, Sakai Y	Genes to Cells	29	9	746-756	2024	10.1111/gtc.13 142
35	Gnao1 is a molecular switch that regulates the Rho signaling pathway in differentiating neurons.	Taira R, Akamine S, Okuzono S, Fujii F, Hatai E, Yonemoto K, Takemoto R, Kato H, Masuda K, A. Kato T, Kira R, Tsujimura K, Yamamura K, Ozaki N, Ohga S, Sakai Y	Scientific Reports	14	1	17097	2024	10.1038/s4159 8-024-68062-x
36	Sintering behavior of ultrafine hydroxyapatite powder prepared by ultrasound irradiation.	Itatani K, Yamazaki R, Mori H, J. Davies I, Kajiwaru S, Kuroe H, Minamisawa H, Kojima Y	Journal of the Society of Inorganic Materials, Japan	31	428	17-24	2024	-
37	Initial bone tissue reactions of hydroxyapatite/collagen-(3-glycidyloxypropyl)trimethoxysilane injectable bone paste.	Sato T, Shirotsaki Y, Oshima S, Tsuru K, Koyama Y, Aizawa M, Kikuchi M	Journal of Biomedical Materials Research Part B: Applied Biomaterials	112	8	e35451	2024	10.1002/jbm.b. 35451
38	Material properties of chelate-setting cement from hydroxyapatite powder with high specific surface area and their cytotoxicity.	Minamisawa H, Suzuki K, Kato S, Sato T, Tsuru K, Kojima Y, Aizawa M	Journal of the Ceramic Society of Japan	132	10	602-608	2024	10.2109/jcersj2 .24067
39	JNK inhibition enhances cell-cell adhesion impaired by desmoglein 3 gene disruption in keratinocytes.	Ogawa S, Ishii T, Otani T, Inai Y, Matsuura T, Inai T	Histochemistry and Cell Biology	161	4	345-357	2024	10.1007/s0041 8-023-02264-8
40	SOX4 reversibly induces phenotypic changes by suppressing the epithelial marker genes in human keratinocytes.	Nagaoka Y, Takeishi Y, Miyake Y, Takeda K, Okamura K, Yao Y, Motomura K, Daitoku H, Fukamizu A, Hatta M	Molecular Biology Reports	51	-	-	2024	10.1007/s1103 3-023-09035-7
41	TGF-β3 from fibroblasts promotes necrotising sialometaplasia by suppressing salivary gland cell proliferation and inducing squamous metaplasia.	Yoshimoto S, Yada N, Ishikawa A, Kawano K, Matsuo K, Hiraki A, Okamura K	The Journal of Pathology	263	3	338-346	2024	10.1002/path.6 287
42	Sphingosine-1-phosphate receptor 1-mediated odontogenic differentiation of mouse apical papilla-derived stem cells.	Hirose H, Fujimasa S, Kanemaru S, Yoshimoto S, Matsumoto N, Anan H, Matsuzaki E	Journal of Dental Sciences	19	4	2323-2331	2024	10.1016/j.jds.2 024.02.004

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
43	Predentin's influence on clastic cell behavior in human external cervical resorption: Evidence from a case study.	Noma T, Yoshimoto S, Kamura Y, Arioka M	Journal of Dental Sciences	19	3	1840-1845	2024	10.1016/j.jds.2024.04.023
44	In vitro evaluation of the antimicrobial properties of terpinen-4-ol on apical periodontitis-associated bacteria.	Kamiya H, Haraguchi A, Mitarai H, Yuda A, Wada H, Shuxin W, Ziqing R, Weihao S, Wada N	Journal of Infection and Chemotherapy	30	4	306-314	2024	10.1016/j.jiac.2023.10.021
45	AMPK activation enhances osteoblast differentiation on a titanium disc via autophagy.	Egashira K, Kajiya H, Tsutsumi T, Taniguchi Y, Kakura K, Ohno J, Kido H	International Journal of Implant Dentistry	10	1	2	2024	10.1186/s40729-024-00525-2
46	Antiviral effect of alkaloids-free Ephedra Herb extract on respiratory syncytial virus infection.	Fujikane A, Fujikane R, Hyuga S, Sechi Y, Hiyoshi T, Sakamoto A, Nishi A, Odaguchi H, Hiromatsu K, Goda Y, Ishino Y, Nabeshima S	Frontiers in Pharmacology	15	-	1410470	2024	10.3389/fphar.2024.1410470
47	The role of adhesion molecules in osteocalcin-induced effects on glucose and lipid metabolism in adipocytes.	Otani T, Mizokami A, Takeuchi H, Inai T, Hirata M	Biochimica et Biophysica Acta (BBA) - Molecular Cell Research	1871	4	119701	2024	10.1016/j.bba-mcr.2024.119701
48	The BHLHE40–PPM1F–AMPK pathway regulates energy metabolism and is associated with the aggressiveness of endometrial cancer.	Asanoma K, Yagi H, Onoyama I, Cui L, Hori E, Kawakami M, Maenohara S, Hachisuga K, Tomonobe H, Kodama K, Yasunaga M, Ohgami T, Okugawa K, Yahata H, Kitao H, Kato K	Journal of Biological Chemistry	300	3	105695	2024	10.1016/j.jbc.2024.105695
49	The anti-tumor effect of trifluridine via induction of aberrant mitosis is unaffected by mutations modulating p53 activity.	Wakasa T, Nonaka K, Harada A, Ohkawa Y, Kikutake C, Suyama M, Kobunai T, Tsunekuni K, Matsuoka K, Kataoka Y, Ochiwa H, Miyadera K, Sagara T, Oki E, Ohdo S, Maehara Y, Iimori M, Kitao H	Cell Death Discovery	10	1	-	2024	10.1038/s41420-024-02083-3
50	Palivizumab prophylaxis in preterm infants and subsequent wheezing/asthma: 10-year follow-up study.	Kato M, Mochizuki H, Kama Y, Kusuda S, Okada K, Yoshihara S, Furuya H, A. F. Simões E	Pediatric Pulmonology	59	3	743-749	2024	10.1002/ppul.26824

3.症例報告

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Oromandibular dystonia induced by olanzapine and mirtazapine: A case report.	Umezaki Y, Egashira R, Motomura H, Naito T	Oral Science International	21	2	304-307	2024	10.1002/osi.21216
2	Persistent intracranial hyper-inflammation in ruptured cerebral aneurysm after COVID-19: Case report and review of the literature.	Fee Chong P, Higashi K, Matsuoka W, Arimura K, Sangatsuda Y, Iwaki K, Sonoda Y, Ichimiya Y, Kamori A, Kawakami A, Mizuguchi S, Kaku N, Sakai Y, Ohga S	BMC Neurology	24	1	17	2024	10.1186/s12883-023-03493-z
3	Giant cell tumor of the acromion: Case report and literature review.	Sano J, Chijiwa Y, Nishio J	In Vivo	38	1	506-510	2024	10.21873/inviv.13467
4	Desmoplastic fibroblastoma (collagenous fibroma) of the knee: A case report and literature review.	Shinohara Y, Chijiwa Y, Nishio J	Cancer Diagnosis & Prognosis	4	6	825-827	2024	10.21873/cdp.10403
5	Intramuscular hybrid nerve sheath tumor of the thigh: Case report and literature review.	Chijiwa Y, Sano J, Okamura K, Nishio J	In Vivo	38	2	971-974	2024	10.21873/inviv.13529

別表1 2024年研究業績(欧文)一覧

〔福岡看護大学〕

1.原著

※ 電子ジャーナルの場合、巻・号・ページは「-」で記載

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Implementation of peer-to-peer oral care objective structured clinical examination-based learning for nursing students.	Haresaku S, Miyoshi M, Muramatsu M, Monji M, Aoki H, Maeda H, Miyazono M, Obuse M, Nakashima F, Uchida S, Iino H, Akinaga K, Chishaki A, Naito T	Japan Journal of Nursing Science	21	3	e12591	2024	10.1111/jjns.12591
2	Development of a school-based online periodontal education programme for adolescents.	Haresaku S, Chishaki A, Hatakeyama J, Yoshinaga Y, Yoshizumi J, Yamamoto M, Matsuzaki E, Hamanaka I, Tsutsumi T, Taniguchi Y, Ohgi K, Yoneda M	International Dental Journal	-	-	-	2024	10.1016/j.identj.2024.07.002
3	Development of interprofessional education programmes in nursing care and oral healthcare for dental and nursing students.	Haresaku S, Naito T, Aoki H, Miyoshi M, Monji M, Umezaki Y, Miyazono M, Egashira R, Chishaki A	BMC Medical Education	24	1	381	2024	10.1186/s12909-024-05227-2
4	The relationships between intermittent hypoxia and oxidative stress in patients with sleep apnea syndrome.	Tokunou T, Yoshikawa T, Yoshioka Y, Ando S	Sleep and Biological Rhythms	22	4	499-504	2024	10.1007/s41105-024-00537-w
5	Evaluation of the oral health education programme for nurses using an oral lesion simulator.	Haresaku S, Naito T, Miyoshi M, Aoki H, Monji M, Nishida A, Kono Y, Kayama M, Umezaki Y	Oral Health and Preventive Dentistry	22	-	203-210	2024	10.3290/j.ohpd.b5458567
6	Harmony between tooth and skin colors: Based on impressions of middle-aged female model faces among females of the same generation.	Kuroki M, Aoki H, Shoyama S	Japanese Journal of Dental Esthetics	37	1	32-42	2024	10.60256/sikas-inbi.37.1_32
7	Harmony between tooth and skin colors: Based on the impressions of male model faces among young males and females.	Kuroki M, Egashira R, Aoki H, Shoyama S	Japanese Journal of Dental Esthetics	36	2	124-133	2024	10.60256/sikas-inbi.36.2_124
8	Inpatients' impressions of bedding in different tones of blue: A survey of psychiatric wards.	Hara Y, Kuroki R, Nakashima F, Shoyama S	Journal of the Japan Research Association for Textile End-Use	65	3	200-207	2024	10.11419/sens-hoshi.65.3_200
9	Validating the short-version european health literacy survey questionnaire for community-dwelling older adults in Japan.	Matsuo R, Fujita K, Miyazono M, Miyasaka K, Yamanaka T, Yakushiji K, Nagai A	Health Promotion International	39	4	-	2024	10.1093/heapr/o/daae105
10	Association between masticatory function, frailty, and functional disability: An observational study.	Furuhashi H, Honda T, Furuta Y, Tomooka S, Tajimi T, Kimura Y, Yoshida D, Ninomiya T	BMC Geriatrics	24	1	538	2024	10.1186/s12877-024-05131-w
11	Suppressed pediatric asthma hospitalizations during the COVID-19 pandemic in Japan, from a national survey.	Korematsu S, Fujisawa T, Saito N, Tezuka J, Miura K, Kobayashi I, Miyata I, Kosugi Y, Gohda Y, Koike Y, Suda A, Matsuo A, Sasaki M, Handa Y, Fujiwara M, Ono A, Koizumi S, Oishi T, Tanaka T, Ando Y, Taba N, Tsurinaga Y, Sato T, Kanai R, Yashiro M, Takagi T, Hida S, Harazaki M, Hoshina T, Okada S, Yasutomi M, Nakata S, Muto A, Tanabe S, Ueda Y, Hasegawa S, Kameda M, Tanaka-Taya K, Fujimoto T, Okada K	Clinical and Translational Allergy	14	1	e12330	2024	10.1002/ctt2.12330

2.その他

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Database profile of the Fukuoka-city information platform for community-based integrated care.	Honda T, Furuhashi H, Furuta Y, Tomooka S, Tajimi T, Nagasawa F, Oishi E, Kimura Y, Yoshida D, Ninomiya T	Annals of Clinical Epidemiology	6	1	5-11	2024	10.37737/ace.24002

別表1 2024年研究業績(欧文)一覧

〔福岡医療短期大学〕

1.原著

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Population pharmacokinetics of tamibarotene in pediatric and young adult patients with recurrent or refractory solid tumors.	Azechi T, Fukaya Y, Nitani C, Hara J, Kawamoto H, Taguchi T, Yoshimura K, Sato A, Hattori N, Ushijima T, Kimura T	Current Oncology	31	11	7155-7164	2024	10.3390/curroncol31110527
2	Qualitative inductive analysis of the lives of women with persistent cloaca based on their narratives.	Miyata J, Hamada Y, Hayashishita S, Fujita A, Izaki T, Obata S, Kondo T, Fukuta A, Kawakubo N, Nagata K, Tamaki A, Maniwa J, Takahashi Y, Matsuura T, Taguchi T, Tajiri T	Pediatric Surgery International	40	1	236-236	2024	10.1007/s00383-024-05807-9
3	Potential role of stem cells from human exfoliated deciduous teeth in inducing liver regeneration.	Alatas FS, Yamaza T, Matsuura T, Ongko L, Kadim MI, Ohga S, Taguchi T, Tajiri T	Journal of Gastroenterology and Hepatology	39	10	2190-2196	2024	10.1111/jgh.16651
4	A novel objective pathologic criterion for isolated hypoganglionosis.	Tamaki A, Kohashi K, Yoshimaru K, Hino Y, Hamada H, Kawakubo N, Taguchi T, Tajiri T, Oda Y	The American journal of surgical pathology	48	7	803-812	2024	10.1097/PAS.0000000000002243
5	Harmony between tooth and skin colors —Based on the impressions of male model faces among young males and females—.	Kuroki M, Egashira R, Aoki H, Shoyama S	Japanese Journal of Dental Esthetics	36	2	124-133	2024	10.60256/sikas-inbi.36.2_124
6	Harmony between tooth and skin colors —Based on impressions of middle-aged female model faces among females of the same generation—	Kuroki M, Aoki H, Shoyama S	Japanese Journal of Dental Esthetics	37	1	32-42	2024	10.60256/sikas-inbi.37.1_32
7	Pharyngeal complications following Two-Jaw surgery.	Yamano T, Tanaka T, Kimura S, Omori F, Wada K, Yok Y, Izumi K, Nakamichi C, Ikeda M	Cureus	16	12	e76539	2024	10.7759/cureus.76539

2.症例報告

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Chronic intestinal pseudo-obstruction due to adult-onset acquired isolated hypoganglionosis with muscular atrophy in the small intestine: A case report and review of literature.	Tayama S, Furuta Y, Morito M, Naoe H, Yoshii D, Uchida Y, Yoshimaru K, Miyamoto Y, Taguchi T, Tanaka Y	Clinical Journal of Gastroenterology	17	2	244-252	2024	10.1007/s12328-023-01902-x
2	Multiple endocrine neoplasia type 2B diagnosed after small intestinal volvulus with progressive megacolon in an adolescent.	Sakai Y, Nakayama Y, Kurasawa S, Sado T, Kato S, Hidaka N, Takamizawa S, Yoshizawa K, Yoshimaru K, Taguchi T	Clinical Journal of Gastroenterology	17	4	640-646	2024	10.1007/s12328-024-01979-y
3	A case of oro-facial injuries due to dog bite treated by a dentist on duty in a dental hospital.	Inoue Y, Sasaki M, Katsumata Y, Hashimoto K, Izumi K, Baba A	Journal of Japan Association of Dental Traumatology	20	1	61-64	2024	-

別表 2 令和 6 年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡歯科大学】

区 分 種 目		令和 6 年 度					前 年 度 比 較 増 減 (R6-R5)					令和 5 年 度				
		申請 件数	内定 件数	新規採択率	内 定 額			申請 件数	内定 件数	採択増減率	内 定 額			申請 件数	内定 件数	新規採択率
					直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計			
日本学術振興会	新学術領域研究						0	0	0	0%	0	0	0			
	継 続						0	0	0				0			
	新 規						0	0	0	0%	0	0	0			
	継 続						0	0	0				0			
	新 規						0	0	0	-100%	-13,300	-3,990	-17,290	1	1	100%
	継 続						0	-1	-1		11,400	3,420	14,820			
	新 規	1	1				3,420	1	1		-1,700	-510	-2,210	3	1	33%
	継 続	4	1	25%	3,400	1,020	4,420	1	0	-8%	-1,600	-480	-2,080	3	3	
	新 規	3	3		9,900	2,970	12,870	0	0		9,500	2,850	12,350	73	9	12%
	継 続	83	13	16%	21,900	6,570	28,470	10	4	4%	-2,721	-863	-3,584	29	29	
	新 規	23	23		23,725	7,117	30,842	-6	-6		0	0	0	2	0	0%
	挑 戦 的 研 究 (開 拓)	1	0	0%		0	0	-1	0	0%	0	0	0			
若手研究	挑 戦 的 研 究 (萌 芽)						0	0	0		0	0	0			
	新 規	6	0	0%			0	3	0	0%	0	0	0	3	0	0%
	継 続						0	0	0		0	0	0			
	新 規	22	3	14%	4,200	1,260	5,460	-13	-6	-11%	-11,300	-3,390	-14,690	35	9	25%
	継 続	9	9		9,600	2,880	12,480	2	2		2,400	720	3,120	7	7	
	新 規	17	3	18%	3,100	930	4,030	6	0	-10%	-100	-30	-130	11	3	27%
	継 続	3	3		3,200	960	4,160	1	1		1,000	300	1,300	2	2	
	新 規	133	20	15%	32,600	9,780	42,380	5	-3	-3%	-16,900	-5,070	-21,970	128	23	18%
	継 続	39	39		57,825	17,347	75,172	-2	-2		10,479	3,097	13,576	41	41	
	総 合 計	172	59		90,425	27,127	117,552	3	-5		-6,421	-1,973	-8,394	169	64	
	合 計															

※研究代表者として採択となっている課題のみ記載

別表3 令和6年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡看護大学】

(単位：千円)

区 分 種 目	令和6年度					前年度比較増減(R6-R5)					令和5年度				
	申請 件数	内定 件数	新規採択率	内定額		申請 件数	内定 件数	採択増減率	内定額		申請 件数	内定 件数	新規採択率	内定額	
				直接経費	間接経費				直接経費	間接経費				直接経費	間接経費
新学術領域研究															
新 規				0	0	0	0	0%	0	0	0	0		0	0
継 続				0	0	0	0		0	0	0	0		0	0
基盤研究(S)															
新 規				0	0	0	0	0%	0	0	0	0		0	0
継 続				0	0	0	0		0	0	0	0		0	0
基盤研究(A)															
新 規				0	0	0	0	0%	0	0	0	0		0	0
継 続				0	0	0	0		0	0	0	0		0	0
基盤研究(B)															
新 規	1	0	0%		0	1	0	0%	0	0	1	0		0	0
継 続	1	1		1,900	570	-1	-1		-2,500	-750				4,400	1,320
基盤研究(C)															
新 規	25	8	32%	10,100	3,030	6	7	27%	9,100	2,730	19	1	5%	1,000	300
継 続	7	7		3,800	1,140	-4	-4		-6,200	-1,860	11	11		10,000	3,000
挑戦的研究 (開 拓)					0	0	0	0%	0	0	0	0		0	0
挑戦的研究 (萌芽)					0	0	0	0%	0	0	0	0		0	0
若手研究					0	1	0	0%	0	0					
研究活動 スタート支援					0	-1	-1		-1,900	-570	1	1		1,900	570
					0	-2	-1	-50%	-1,900	-570	2	1	50%	1,900	570
	1	1		1,000	300	1	1		1,000	300				0	0
	7	1	14%	1,800	540	6	1	14%	1,800	540	1	0	0%	0	0
					0	0	0		0	0	0	0		0	0
合 計	34	9	26%	11,900	3,570	12	7	17%	9,000	2,700	22	2	9%	2,900	870
	9	9		6,700	2,010	-5	-5		-9,600	-2,880	14	14		16,300	4,890
総合計	43	18		18,600	5,580	7	2		-600	-180	36	16		19,200	5,760

※研究代表者として採択となっている課題のみ記載

別表 4 令和 6 年度 科学研究費助成事業決定状況

(単位：千円)

【福岡医療短期大学】

区 分 種 目	令和 6 年 度						前 年 度 比 較 増 減 (R6-R5)						令和 5 年 度					
	申請 件数	内定 件数	新規採択率	内定額			申請 件数	内定 件数	採択増減率	内定額			申請 件数	内定 件数	新規採択率	内定額		
				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計
新学術領域研究 基盤研究 (S) 基盤研究 (A) 基盤研究 (B) 基盤研究 (C) 挑戦的研究 (開 拓) 挑戦的研究 (萌芽) 若手研究 研究活動 スタート支援	新 規					0	0	0	0%	0	0	0					0	0
	継 続					0	0	0		0	0	0					0	0
	新 規					0	0	0	0%	0	0	0					0	0
	継 続					0	0	0		0	0	0					0	0
	新 規					0	0	0	0%	0	0	0					0	0
	継 続					0	0	0		0	0	0					0	0
	新 規					0	0	0	0%	0	0	0					0	0
	継 続					0	0	0		0	0	0					0	0
	新 規					0	0	0	0%	0	0	0					0	0
	継 続					0	0	0		0	0	0					0	0
日本学術振興会	新 規	1	1	2,600	780	3,380	0	0		100	30	130	1	1		2,500	750	3,250
	継 続	6	1	1,900	570	2,470	-2	-1	-8%	-300	-90	-390	8	2	25%	2,200	660	2,860
	新 規	4	4	3,900	1,170	5,070	2	2		2,000	600	2,600	2	2		1,900	570	2,470
	継 続	1	0		0	0	1	0	0%	0	0	0					0	0
	新 規					0	0	0		0	0	0					0	0
	継 続					0	0	0		0	0	0					0	0
	新 規	2	1	2,300	690	2,990	-2	1	50%	2,300	690	2,990	4	0	0%		0	0
	継 続	1	1	1,200	360	1,560	0	0		-500	-150	-650	1	1		1,700	510	2,210
	新 規					0	0	0	0%	0	0	0					0	0
	継 続					0	0	0		0	0	0					0	0
厚生労働省等	新 規					0	0	0	0%	0	0	0					0	0
	継 続					0	0	0		0	0	0					0	0
	新 規	9	2	4,200	1,260	5,460	-3	0	6%	2,000	600	2,600	12	2	17%	2,200	660	2,860
	継 続	6	6	7,700	2,310	10,010	2	2		1,600	480	2,080	4	4		6,100	1,830	7,930
	学振合計	15	8	11,900	3,570	15,470	-1	2		3,600	1,080	4,680	16	6		8,300	2,490	10,790
	新 規					0	-1	-1	-100%	-27,100	-7,660	-34,760	1	1	100%	27,100	7,660	34,760
	継 続	1	1	27,100	7,660	34,760	1	1		27,100	7,660	34,760					0	0
	新 規			0	0	0	-1	-1	-100%	-27,100	-7,660	-34,760	1	1	100%	27,100	7,660	34,760
	継 続	1	1	27,100	7,660	34,760	1	1		27,100	7,660	34,760	0	0		0	0	0
	厚労省等合計	1	1	27,100	7,660	34,760	0	0		0	0	0	1	1		27,100	7,660	34,760
合 計	新 規	9	2	4,200	1,260	5,460	-4	-1	-1%	-25,100	-7,060	-32,160	13	3	23%	29,300	8,320	37,620
	継 続	7	7	34,800	9,970	44,770	3	3		28,700	8,140	36,840	4	4		6,100	1,830	7,930
	総合計	16	9	39,000	11,230	50,230	-1	2		3,600	1,080	4,680	17	7		35,400	10,150	45,550

※研究代表者として採択となっている課題のみ記載

別表5 令和6年度海外研修派遣一覧表

第3種海外研修派遣実績一覧表

福岡歯科大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
口腔・顎顔面外科学講座	教授	池邊 哲郎	学会	大韓民国（ソウル）	R6. 4. 11	R6. 4. 13
	客員教授	湯浅 賢治	学会	台湾（高雄）	R6. 6. 12	R6. 6. 16
成長発達歯学講座	教授	玉置 幸雄	研修	アメリカ（ソーソン）	R6. 5. 31	R6. 6. 9
成長発達歯学講座	助教	石井 太郎	研修	アメリカ（ソーソン）	R6. 5. 31	R6. 6. 9
歯科衛生士部	歯科衛生士	中村 美貴	ボランティア	ミャンマー（ヤンゴン）	R6. 6. 2	R6. 6. 9
成長発達歯学講座	教授	岡 暁子	学会	台湾（台北）	R6. 6. 28	R6. 6. 30
成長発達歯学講座	講師	柏村 晴子	学会	台湾（台北）	R6. 6. 28	R6. 6. 30
成長発達歯学講座	助教	石井 華子	学会	台湾（台北）	R6. 6. 28	R6. 6. 30
成長発達歯学講座	医員	中野 佑美	学会	台湾（台北）	R6. 6. 28	R6. 6. 30
総合歯科学講座	教授	内藤 徹	学会	大韓民国（ソウル）	R6. 7. 10	R6. 7. 14
口腔・顎顔面外科学講座	教授	池邊 哲郎	学会	インド（チェンナイ）	R6. 7. 24	R6. 7. 27
生体構造学講座	講師	林 慶和	打合わせ	台湾（台北）	R6. 8. 19	R6. 8. 23
口腔医学研究センター	客員教授	平田 雅人	学会	トルコ（イスタンブール） フランス（パリ）	R6. 9. 10	R6. 9. 19
総合医学講座	教授	金光 芳郎	学会	ドイツ（チュービンゲン）	R6. 9. 17	R6. 9. 22
成長発達歯学講座	教授	森田 浩光	学会	大韓民国（ソウル）	R6. 9. 26	R6. 9. 29
口腔治療学講座	准教授	吉永 泰周	学会	アメリカ（サンディエゴ）	R6. 10. 30	R6. 11. 5
咬合修復学講座	教授	城戸 寛史	学会	中華人民共和国（珠海市）	R6. 9. 18	R6. 9. 21
総合医学講座	助教	北村 博雅	学会	アメリカ（サンディエゴ）	R6. 10. 23	R6. 10. 28
成長発達歯学講座	教授	岡 暁子	学会	タイ王国（バンコク）	R6. 10. 29	R6. 11. 2
成長発達歯学講座	助教	熊谷 徹弥	学会	タイ王国（バンコク）	R6. 10. 29	R6. 11. 2
成長発達歯学講座	医員	姫野 涼香	学会	タイ王国（バンコク）	R6. 10. 29	R6. 11. 3
成長発達歯学講座	大学院	隅 聡子	学会	タイ王国（バンコク）	R6. 10. 29	R6. 11. 3
総合歯科学講座	教授	米田 雅裕	学会	タイ王国（バンコク）	R6. 12. 10	R6. 12. 13
総合歯科学講座	教授	内藤 徹	学会	大韓民国（ソウル）	R6. 10. 26	R6. 10. 28
総合歯科学講座	准教授	梅崎 陽二郎	学会	大韓民国（ソウル）	R6. 10. 26	R6. 10. 28
成長発達歯学講座	医員	田口 雅英	研究	ミャンマー（ヤンゴン）	R6. 12. 1	R6. 12. 8
生体構造学講座	講師	林 慶和	打合わせ	シンガポール（シンガポール）	R7. 3. 10	R7. 3. 13
総合歯科学講座	教授	米田 雅裕	学会	アメリカ合衆国（ニューヨーク）	R7. 3. 10	R7. 3. 17
総合歯科学講座	大学院生	鷹取 諄	学会	アメリカ合衆国（ニューヨーク）	R7. 3. 10	R7. 3. 17
咬合修復学講座	教授	城戸 寛史	学会	アメリカ合衆国（シアトル）	R7. 3. 26	R7. 3. 30
咬合修復学講座	助教	松本 彩子	学会	アメリカ合衆国（シアトル）	R7. 3. 26	R7. 3. 31
咬合修復学講座	助教	江頭 敬	学会	アメリカ合衆国（シアトル）	R7. 3. 26	R7. 3. 31
咬合修復学講座	医員	藤垣 美紀	学会	アメリカ合衆国（シアトル）	R7. 3. 26	R7. 3. 31
咬合修復学講座	大学院	新藤 美湖	学会	アメリカ合衆国（シアトル）	R7. 3. 26	R7. 3. 31

④第3種海外研修派遣：1カ月以内視察、調査、研究、学会参加等

第2種研修派遣実績一覧表

福岡歯科大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
口腔インプラント学分野	大学院生	新藤 美湖	研究	岩手医科大学	R6. 4. 8	R6. 9. 30
口腔インプラント学分野	大学院生	城戸 勇磨	研究	岩手医科大学	R6. 9. 23	R7. 3. 31

⑤第2種研修派遣：1カ月以上1年以内の国内研修等

別表6 令和6年度 外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研 修 等 名	場 所	参加者
企画課	8/1	広報担当者協議会	東京都	森川 弥生
	8/27	日本私立学校振興・共済事業団 助成部相談会・説明会	福岡市	森川 弥生
	9/19-9/20	事務局長担当者研修会	東京都	白土 浩太郎
総務課	5/30	学校法人の勤怠管理に関するセミナー	オンライン	田島 大寛
	6/19	労働安全衛生規則改正及び働き方改革に関する説明会	オンライン	田島 大寛
	6/25	私学共済事務担当者連絡会	福岡市	岩崎 凌大
	8/27	日本私立学校振興・共済事業団 助成部相談会・説明会	福岡市	田島 大寛
	8/30	給与実務研修会	東京都	田島 大寛
	8/30	給与実務研修会	東京都	安武 宏高
	10/24-10/25	日本私立歯科大学協会 事務職員研修	東京都	安武 宏高
	11/12	労働法実務講座	福岡市	林 恭久
	11/27	公正採用選考人権啓発推進員研修	福岡市	石橋 慶憲
	12/11	改正育児・介護休業法の実務対応セミナー	オンライン	田島 大寛
財務課	8/27	日本私立学校振興・共済事業団 助成部相談会・説明会	福岡市	森田 俊
	10/24-10/25	日本私立歯科大学協会 事務職員研修	東京都	森田 俊
	11/14-11/15	私立大学協会 経理部課長相当者研修会	神戸市	松添 裕晃
教育研究支援課	4/25	オープンアクセスに関する説明会	オンライン	和才 広輝
	4/25	オープンアクセスに関する説明会	オンライン	安藤 駿
	6/27-6/29	公私立大学実験動物施設協議会 定期総会	岩手県	和才 広輝
	7/22	保護具着用管理責任者講習会	福岡市	森下 孝一郎
	8/27	日本私立学校振興・共済事業団 助成部相談会・説明会	福岡市	宮崎 智美
	9/24	火災予防サポート講習会	福岡市	秋吉 慎仁郎
	9/26	プラットフォーム主催 私立大学等経常費補助金に関するSD研修	オンライン	宮崎 智美
	10/30	大学基準協会「学修者本位の教育」に向けた教学マネジメントのしくみづくり	オンライン	安藤 駿
	11/29	九州地区私立大学事務連絡協議会	熊本市	和才 広輝
	1/28	科研費事業に関する説明会	オンライン	安藤 駿
	3/17	解剖技術研究・研修会	東京都	窪 和寛
学務課	6/1	九州デンタルショー	福岡市	福吉 真季
	9/12	【大学入試センター】入試担当者連絡協議会	オンライン	福吉 真季
	9/20	【大学入試センター】入試担当者連絡協議会	オンライン	山崎 直道
	10/15-10/17	私立大学歯学部学生生活協議会	岩手県	高松 裕一
	10/22	令和6年度歯学生共用試験CBT実施責任者講習会	オンライン	高松 裕一
	10/23-24	自衛消防業務新規講習	福岡市	高畠 義人
	11/27	Adobe Expressウェブセミナー	オンライン	福吉 真季
	12/12	ファシリテーション研修	福岡市	高畠 義人
	1/15	自転車安全利用推進員講習会	福岡市	平間 諒
	2/18	日本学生支援機構奨学業務連絡協議会	オンライン	山崎 直道

別表6 令和6年度 外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研修等名	場所	参加者
学務課	2/18	日本学生支援機構奨学業務連絡協議会	オンライン	平間 諒
	2/28	2025年度歯学生共用試験実施に向けた全国説明会	オンライン	高松 裕一
	3/11	Pre-CC OSCE WEB評価入力システム導入説明会	オンライン	高松 裕一
情報図書館課	6/11-6/12	学術情報基盤オープンフォーラム	東京都	平野 太一
	7/12	JUSTICE電子資料契約実務研修会	オンライン	外山硫璃子
	8/1-8/2	Shibboleth環境の構築	オンライン	亀井 愛
	8/2	KadaiDXシンポジウム2024	オンライン	平野 太一
	8/21	図書館システム「情報館」でできる利用者へのアプローチ～OPACは知恵とアイデアで勝負～	オンライン	外山硫璃子
	8/21	図書館システム「情報館」でできる利用者へのアプローチ～OPACは知恵とアイデアで勝負～	オンライン	木村 弥生
	8/22-8/23	日本私立大学協会 中堅職員研修会	熊本市	外山 硫璃子
	9/3	2024年度リポジトリ担当者の基礎知識研修（2024年度第3回 JPCOAR Webinar）	オンライン	木村 弥生
	9/3	2024年度リポジトリ担当者の基礎知識研修（2024年度第3回 JPCOAR Webinar）	オンライン	外山硫璃子
	9/13	日本看護図書館協会 研究会	東京都	木村 弥生
	11/6-11/7	図書館総合展	横浜市	亀井 愛
	11/6-11/7	図書館総合展	横浜市	外山 硫璃子
	11/29	第32回 九州地区医学図書館員セミナー	オンライン	外山硫璃子
	11/29	第32回 九州地区医学図書館員セミナー	オンライン	丸田 静香
	11/29	第32回 九州地区医学図書館員セミナー	オンライン	木村 弥生
	1/21-23	文部科学省CSIRT研修（入門編）	オンライン	長崎 聖子
	1/31	大学ITマネジメントセミナー2024冬	オンライン	平野 太一
看護大学事務課	8/22-8/23	日本私立大学協会 中堅職員研修会	熊本市	鬼束 泰裕
	8/23	AI Meet up 2024ビジネスサロン	オンライン	古賀 稔也
	8/27	RICOH Value Presentation 2024	福岡市	古賀 稔也
	11/7	トーチリレーによる、法人サービスの説明会	オンライン	古賀 稔也
	1/15	自転車安全利用推進員講習会	福岡市	宮里 駿土
病院事務課	6/15	日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会	WEB	森澤 雅志
	6/15	日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会	大分県	南 信嗣
	6/16	日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会	オンライン	森澤 雅志
	6/16	日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会	大分県	南 信嗣
	6/19	医療機関における労働安全衛生規制改正（電離放射線、化学物質）及び働き方改革に関する説明会	福岡市	多賀谷陽子
	6/19	医療機関における労働安全衛生規制改正（電離放射線、化学物質）及び働き方改革に関する説明会	福岡市	太田 周吾
	6/29	福岡県医療ソーシャルワーカー協会 定例研修	福岡市	森澤 雅志
	10/4	早良区医療ソーシャルワーカー交流会	福岡市	南 信嗣
	10/4	早良区医療ソーシャルワーカー交流会	福岡市	森澤 雅志
	10/18	医療メディエーター導入講演会	福岡市	實渕 ひとみ
	11/2	医療メディエーター認定研修会（基礎編）	福岡市	實渕 ひとみ
	11/3	医療メディエーター認定研修会（基礎編）	福岡市	實渕 ひとみ

別表6 令和6年度 外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研 修 等 名	場 所	参加者
病院事務課	11/15	12月2日以降の医療機関の窓口における資格確認方法等についてのセミナー	オンライン	坂本 静
	11/15	12月2日以降の医療機関の窓口における資格確認方法等についてのセミナー	オンライン	佐藤 朱理
	11/15	12月2日以降の医療機関の窓口における資格確認方法等についてのセミナー	オンライン	岩崎 美喜子
	11/15	12月2日以降の医療機関の窓口における資格確認方法等についてのセミナー	オンライン	田村 優実
	12/12	ファシリテーション研修	福岡市	太田 周吾
	12/20	働き方改革関連法に関する説明会	福岡市	坂本 静
	1/22	緩和ケア研修会	福岡市	南 信嗣
	1/22	緩和ケア研修会	福岡市	森澤 雅志
	1/30	福岡県ヤングケアラー関係機関研修	福岡市	森澤 雅志
	1/31	令和7年度生活習慣病予防健診・特定保健指導実施機関事務説明会	オンライン	北條 成美
	1/31	令和7年度生活習慣病予防健診・特定保健指導実施機関事務説明会	オンライン	吉田 誠子
	2/20	早良区多職種連携研修会	福岡市	森澤 雅志
	3/10	病院向けBCP策定・運用研修（令和6年度）	福岡市	深川 慎吾
	3/15	リハビリテーション研修会	福岡市	坂本 静
	3/21	九州地区施設基準班ミーティング	佐賀県	手塚 直哉
教育支援・教学IR室 事務室	7/19	「eポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアム」令和6年度第1回定例研究会	オンライン	赤間 尚希
	8/27	日本私立学校振興・共済事業団 助成部相談会・説明会	福岡市	赤間 尚希
	9/25	「eポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアム」第4回フォーラム	オンライン	赤間 尚希
	10/17	令和6年度歯学生共用試験CBT実施責任者講習会	オンライン	赤間 尚希
	12/3	「eポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアム」令和6年度第2回定例研究会	オンライン	赤間 尚希
	12/9-12/12	AXIES 2024年度年次大会	奈良県	赤間 尚希
	12/10	医療職のための統計セミナー	オンライン	真島 晃子
	1/17	生成AIとAdobe Expressを使ったコンテンツ制作	オンライン	真島 晃子
	3/11	Pre-CC OSCE WEB評価入力システム導入説明会	オンライン	赤間 尚希
	3/14	ALCS学修行動比較調査2024 内部報告会	東京都	真島 晃子

別表7 令和6年度 教職員研修実施結果

＜令和6年度研修基本方針＞

教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員が必要な知識及び技能を習得させ、その能力及び資質を向上させることを目的とする。

その他、本基本方針を達成するため、都度必要な研修を行うことがある。

○階層別研修

研修名		対象者	研修内容	実施日	受講者数
1	採用時研修	新規採用事務職員	本学の概要、大学教職員の基礎知識、各課の紹介等	9月実施	4名
			フォローアップ研修 仮題「初年度の反省と、2年目に向けて」	2月5日実施	4名
2	若手・中堅職員研修	係長・主任・事務職員	キャリアデザインについて	8月27日実施 (ビデオ受講)	70名 (37名)

○専門別研修

題 材		対象者	研修内容	実施日	受講者数
1	ハラスメント	管理職教職員	アンガーマネジメント研修	7月4日実施 (ビデオ受講)	89名 (36名)
2	IT研修	三大学の教職員	Microsoft365の活用について	7月30日実施 (ビデオ受講)	241名 (131名)
3	ハラスメント	管理職以外の教職員 ※嘱託職員も含む	メンタルヘルス研修	9月10日実施	97名
4	コンプライアンス	研究に携わる教職員 ※嘱託職員も含む	コンプライアンス研修	オンライン受講	432名
5	男女共同参画	事務職員	働きやすい職場づくりのためのコミュニケーション	9月27日実施	36名
6	AED研修	三大学の職員・基礎系教員	救命処置のために	2月7日実施	32名
7	人事考課	課長・課長補佐	人事考課のための考課者研修	12月18日実施	16名

別表8 令和6年度 西部地区五大学連携懇話会研修参加者

研 修 名		主 催	場 所	受講日	参加者
1	ファシリテーション研修	九州大学	福岡市	12月12日	高畠 義人
2	ファシリテーション研修	九州大学	福岡市	12月12日	太田 周吾